

2022 年度

事業報告書

法人本部

町田市大賀藕絲館

町田市美術工芸館

こころみ

かがやき

居住支援事業(じくくろヨ)

相談支援事業(とびら・忠生地域障がい者支援センター)

ひかり療育園



社会福祉法人まちだ育成会

2022年度を振り返って

2022年度は、「ひかり療育園」の事業がスタートし、新たにご利用者を迎え、新たな職員体制で取り組みました。コロナの感染は最小限に留めるよう努力はしましたが、クラスターもあり、特にグループホームでの対応では職員の頑張りにより乗り越える事ができました。利用者、職員、保護者など後遺症も残る事もなく、今までの生活に戻る事ができました。

利用者支援や地域貢献などの取り組みは、コロナの感染も徐々に落ち着いてきたこともあり、ご利用者が楽しみにしていた行事等は形を変えて工夫して実施することができました。「ハス祭や紅花祭」「かがやき祭」「美工フェスティバルや型入れ式」「しいたけ祭」等が開催されました。

ご利用者や地域の方々の笑顔を見ることができました。地域交流は少しずつ深められました。今後も地域交流は、まちだ育成会の事業の特色や魅力を発揮して「地域福祉」の担い手であり続けます。

事業報告の中で特筆すべき報告は、「中期経営計画」（2023年～2027年）が策定されたことが挙げられます。そのアンケート調査の結果からは、法人の取り組む事業の内容やその優先順位なども明確になりました。更に、ひかり療育園の建て替えも予定されており、実施に向けて「ワークショップ」が開催されました。多くの職員が加わり、大きな成果を上げました。この取り組みによって得られたチームワークや意識はこれからの検討に大いに役立てられるものです。

社会福祉法人まちだ育成会

まちだ育成会 基本理念

ひとり一人の命と人権を守り、個性を尊重し、かけがえのない人生を大切にします。

共に支えあい、共に歩み、心豊かでいきいきとした暮らしを目指します。

地域の人と、心を通わせ、絆を深め、福祉の輪を広げていきます。

まちだ育成会 スローガン

共に支えあい、歩み、輝く

まちだ育成会 基本方針

- ◆ ご利用者の笑顔と心豊かな暮らしの実現を目指します。
- ◆ 個性溢れる施設の特色を生かして地域と連携します。
- ◆ 職員ひとり一人に目標を持った人材育成を行います。
- ◆ コンプライアンス（法令の遵守）を徹底し、健全で安定した運営を行います。

まちだ育成会 職員憲章

1. 私たちは、ご利用者の人権を守ります。
2. 私たちは、ご利用者の主体性、個性を尊重し、自ら適切な選択や決定ができる支援を行います。
3. 私たちは、ご利用者の社会参加の機会を提供します。
4. 私たちは、より高度な倫理観を持ち、専門性の向上を目指し、自己研鑽に励みます。
5. 私たちは、常にチームワークを大切にし、いきいきとした職場作りに努めます。

◇目 次◇

〈法人本部〉



- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

〈町田市大賀藕絲館〉



- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 3 その他の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

〈町田市美術工芸館〉



- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 3 その他の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

〈こころみ〉



- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 3 その他の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

〈かがやき〉



- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
- 3 その他の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

〈居住支援事業[にじくろ]〉



- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45・51
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 46・52
- 3 その他の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

〈相談支援事業[とびら・忠生地域障がい者支援センター]〉



- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
- 3 その他の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

〈ひかり療育園〉

- 1 施設経営状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
- 2 重点項目に関する報告・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
- 3 その他の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

〈監査報告書〉

- 監事監査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64



2022年度 法人本部経営報告

部長 清水 謙一

はじめに

4月からは「ひかり療育園」の事業が開始されました。「ひかり療育園」では生活介護事業、高次脳機能障がい相談事業を引継ぎ、安心安全な支援や相談を行っております。

7月からは新型コロナウイルスの流行で感染拡大を防ぐ為にも施設を閉所する状況がありました。ご利用者、ご家族、職員とも元気に乗り越える事ができました。引き続き、感染対策を講じながら事業継続を行ってまいります。

行事等の復活を目標に掲げている今年度は新型コロナウイルス感染状況、対策を講じながら、日帰り旅行、外出、お祭り、式典を行いました。ご利用者、ご家族、地域の方々など多くの方の笑顔が見られたと感じています。職員のスキルアップに繋がり、自信にもなったと思います。

4回目の新型コロナウイルスワクチン接種、集団健康診断と施設で受診できる機会を作り、健康維持の為に支援も実施する事が出来ました。

今年度は管理者等の異動もあり、組織力が試された上半期でした。その中で職員皆が力を付けている事が再認識できました。「自分達で考える事」「行動する事」が実践を行った職員のおかげで、管理者は助けられた事が多数あった事と感じています。

ひかり療育園の建替えに向けて、地域貢献事業を事業化していく職員参加型のデスクッションが行われました。各事業者から数名参加して様々な意見、アイデアが出て、大変活発な研修が行われました。そこで出てきた事業案なども参考に、ひかり建替えに向け動き出しました。

22年度は中期経営計画の5年目を迎え最終年度となり、5年の総括を行いました。平行して利用者、家族、職員、地域のからの意見聴取を行いました。

その中で法人保護者会、各事業者の家族会、保護者会では3つ目のグループホームの話は共通してご意見いただいた内容でした。親なき後、高齢化対策への不安や困り感のご意見がありました。第二期中期経営計画はそのような意見を反映したものとなりました。

法人経営、事業者運営を支える法人本部は「時代の流れは速く、制度、法律、災害対策、ITの活用など、変化に柔軟に対応できる経営が求められ、本部の「機能力」の再構築の為にひかり療育園2階に移転を行いました。新たな環境で「縁の下の力持ち」の役割や法人全体の指針となる「旗振り役」として取り組んで参ります。

上半期は新型コロナウイルス感染拡大の影響、物価高騰等の影響もあり財務状況は昨年対比では厳しい状況となりましたが、下半期には対策を講じていながら、安心安全に施設運営、支援サービスを提供しました。

1 法人経営状況報告

◇1-1 利用者数、出勤率（入退所の情報）

拠点区分	2022.4.1現在	期間中入所	期間中退所	2023.3.31現在	出勤率 利用率
大 賀 藕 絲 館	63	1		64	84.6%
美 術 工 芸 館	69		3	66	81.9%
こ こ ろ み	20	1	1	20	87.8%
か が や き	76		1	75	88.1%
居住支援（にじ）	16	1	1	16	96.5%
ひかり療育園	38	5	3	40	84.3%
合 計	282	8	9	281	-

➤居住支援事業の述べ利用泊数（※在宅支援含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
にじレッド(共同生活援助)	206	206	199	217	217	180
にじオレンジ(共同生活援助)	268	275	270	256	270	267
クレヨンレッド館(短期入所)	19	21	22	21	18	14
クレヨンオレンジ館(短期入所)	16	16	21	4	10	16

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	稼働平均	平均利用率
にじレッド(共同生活援助)	186	201	217	216	196	216	205	96.2%
にじオレンジ(共同生活援助)	279	253	269	268	252	279	267	97.6%
クレヨンレッド館(短期入所)	26	23	16	16	21	15	19	63.6%
クレヨンオレンジ館(短期入所)	18	15	15	21	22	24	17	54.2%

にじ 11月・12月…体験利用(4名)含む
 (昨年: にじレッド館 99.5%、オレンジ館 98.5% クレヨンレッド館 89.0%、オレンジ館 80.2%)

➤相談支援事業の窓口申請・問合せ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来所での申請問合せ	145	101	116	181	278	131
電話での申請問合せ	50	59	64	53	52	53
合計	195	160	180	234	330	184

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
来所での申請問合せ	115	169	134	131	170	187	1858	155
電話での申請問合せ	58	62	38	52	73	72	686	57
合計	173	231	172	183	243	259	2544	212

(昨年: 月平均合計 192件)

◇1-2 職員数、離職率、有休取得率

① 期間中の職員入退職状況

拠点区分	2022.4.1現在	期間中入職	期間中退職	2023.3.31現在	離職率
法人本部	8	1		9	0%
大賀 藕 絲 館	36	4	5	35	13.9%
美術 工 芸 館	32	9	11	30	34.4%
こ ころ み	7	1		8	0%
か が や き	52		3	49	5.8%
居 住 支 援	10	2	2	10	20%
相 談 支 援	8			8	0%
ひ かり 療 育 園	16	3	4	15	25%
合計	169	20	25	164	14.8%

(4月1日 13名入職含む)

(離職率: 2021年度末現在 15.7%)

② 契約区分別期間中入退職内訳

契約区分	2022.4.1現在	期間中入職	期間中退職	2023.3.31現在	離職率
正 規 職 員	68	11	9	70	13.2%
嘱 託 職 員	18		4	14	22.2%
契 約 職 員	38	2	3	37	7.9%
専 従 職 員	45	7	9	43	20%
合計	169	20	25	164	14.8%

③ 時間外労働の整理と適正化

	2022年度	2021年度	増 減	
残業手当総額	16,801,455円	11,342,007円	5,459,448円	48.1%増
残業時間	13,353h	9,386h	3,967h	42.3%増

◇1-3 就労会計（通所のみ）

拠点区分	収 入	支 出	収 益
大賀 藕 絲 館	13,233,917円	13,562,984円	▲329,067円
「 心 和 」	2,653,413円	1,848,270円	805,143円
美術工芸館	8,120,389円	7,486,775円	633,614円
こ ころ み	5,334,370円	4,794,182円	540,188円
か が や き	24,027,157円	26,056,181円	▲2,029,024円
合 計	53,369,246円	53,748,392円	▲379,146円

◇1-4 工賃実績

拠点区分	工 賃		合 計	一人当たりの 平均工賃
	工 賃	賞 与		
大賀 藕 絲 館	7,686,700円 (600) (心和1200)	1,165,000円	8,851,700円	12,159円
美術工芸館	5,187,000円 (400)		5,187,000円	6,767円
こ ころ み	2,152,750円 (500)	145,000円	2,297,750円	10,294円
か が や き	12,180,750円 (750)	2,567,500円	14,748,250円	16,423円
合 計	27,207,200円	3,877,500円	31,084,700円	

※（ ）内は日額

◇1-5 給付収入、委託収入（実績ベース）

拠点区分	生活介護	就労継続 支援B型	居宅事業	短期入所	特定相談 支援事業	委託事業	合 計
大賀 藕 絲 館	68,192,970	56,615,824					124,808,794
昨 年 度	65,066,347	57,538,923					122,605,270
美術工芸館	80,604,474	40,511,062					121,115,536
昨 年 度	78,465,732	43,161,016					121,626,748
こ ころ み		35,708,223					35,708,223
昨 年 度		34,839,763					34,839,763
か が や き	86,814,794	85,638,163					172,452,957
昨 年 度	87,224,287	82,563,986					169,788,273
居住支援			51,335,947	5,835,686			57,171,633
昨 年 度			51,817,998	4,888,068			56,706,066
相談支援					3,068,076	29,688,205	32,756,281
昨 年 度					3,721,830	29,476,114	33,197,944
ひかり療育園	58,770,501					69,102,000	127,872,501
昨 年 度	実績なし						
合 計	294,382,739	218,473,272	51,335,947	5,835,686	3,068,076	98,790,205	671,885,925
	230,756,366	218,103,688	51,817,998	4,888,068	3,721,830	29,476,114	538,764,064

◇1-6 修繕実績（実績ベース）

拠点区分	修繕件名	金額
大賀藕絲館	自動ドア修理	町田市
	2階相談室カーペット張替え	77,000円
美術工芸館	厨房ガスコンロ	町田市
	玄関自動ドアユニット交換	町田市
こころみ	トラック車検（バッテリー交換・その他修理、交換）	148,148円
	2階トイレ壁紙張り替え	44,000円
	敷地内樹木剪定	町田市
	防災倉庫の設置	53,880円
	外水栓の水漏れ修理	町田市
かがやき	ダリア円給水バブル修繕	69,001円
	2階男子トイレ修繕（2回）	231,000円
	スチームコンベクション修理	137,060円
	遮光ネット・ビニールハウス張替	406,995円
ひかり療育園	水栓取り付け修繕	41,800円
	パーテーション撤去	210,100円

◇1-7 助成金

かがやき 三井住友信託銀行株式会社
 会議机2台及び椅子4脚（286,000円の内 280,000円助成）
 昭和会館
 パーソナルロッカー2台（415,360円の内 330,000円助成）

◇1-8 固定資産になる物品等

大賀藕絲館 4月 耕運機 廃棄
 5月 耕運機 購入 502,415円
 9月 冷蔵ショーケース 廃棄

2 重点項目に関する報告

◇2-1 法人組織の機能強化

法人職員数も167名となりました。新たな法人組織編成に向けて、法人組織の基盤で重要な人材をしっかりと固めていく必要があります。人材確保、育成、定着の強化が必要であり、その中でも中核層の人材育成、管理職への育成も課題となっております。その為研修制度の見直しを図りました。

新卒採用ではオンラインでの就職説明会に参加し、2023年卒の学生との接点を持ち、「内定承諾」を取ることもできました。若い活力とベテランの経験を融合させ、多様なニーズに応えられる法人組織を目指しました。

① 人材確保、育成、定着の強化

【人材確保】

人材確保においてもまずは法人を認識してもらうことが必要です。その為にはいかに目に触れる回数を上げるかといったことが問題となります。そこで情報発信委員会を設立し、動画、SNSを活用した人材確保やYouTube等から情報発信を行うべく、委員会の開催、SNSアカウント作成、法人HPのリニューアルを行いました。特にInstagramでの発信に力をいれ、それぞれの施設で週一回の投稿を行い、まずは発信に慣れることを定着させました。

【人材育成】

初任者研修制度は仕組み化していますが、役職者、指導職層の育成強化が必要です。

運営会議メンバーを中心に、研修制度の在り方、また Special Learning の活用についても再検討し、職員への周知・受講の徹底を図りました。「このテーマを今聞きたい」という個人のタイミングで講義を聞くことを可能にする研修制度です。これからも子育て世代、短時間契約者、グループホーム職員など時間の有効活用を図り充実させていきます。

その他ひかり療育園の建て替えや地域貢献事業を事業化していく職員参加型のワークショップを外部講師を招いて月1回（計7回）開催しました。3グループに分け、どのようにアイデアを形にして、事業化するのかを学びながら進めました。グループごとに事業計画を作成して、3月開催の法人職員会議では理事、職員に向けて成果発表を行いました。この意見・提案は「ひかり療育園」建て替えに伴う事業案として、活用します。

【人材定着】

「多様な働き方を受け入れて、働き続けられる法人」を目指し、子育て中の方、産休育休復帰する方、シニア、障がい者雇用など多様な働き方が可能になるよう更なる整備を行いました。積極的な有休休暇の取得や感染症休暇、介護休暇、看護休暇の取得など、職員それぞれの状況に応じた働き方ができるよう、法人としてバックアップをしました。また社会保険の適用拡大や最低賃金への対応は勿論のこと、新規採用職員のフォローアップ面談を行うなど「定着」に向けた取り組みを行いました。

② 第二期 中期経営計画の策定

2022年度は、2023年度～2027年度の5ヵ年の中期経営計画を策定年度でした。

社会情勢、福祉制度の未来の想定を行いながら「まちだ育成会」の道しるべを作成しました。利用者、保護者、職員からはアンケート方式等で意見を聴衆したり、地域の方とは懇談の時間を設け、今後の課題や困りごとなどの意見交換を行いました。その意見も取り入れながら、運営会議、経営会議、理事会などで検討いただき、策定に至りました。

③ 業務見直し、経費削減の強化

エレベーター点検業務委託の見直しを行いました。7月8月は新型コロナウイルス感染拡大の為、施設閉所が町田市美術工芸館、町田市大賀藕絲館、かがやき、クレヨンでありました。

第7波では法人全体で昨年対比-5,159,663円の減収となっています。

上半期の物価高騰の影響で光熱費が昨年対比で2,532,428円支出が増額しました。

経営会議で状況を数字で共有を行い下半期へ対策を講じていきましたが、物価高騰の影響は大きく光熱水費が増額しています。

経費削減の為、次年度の業務委託内容の見直しや発注先の検討・変更を行いました。

また、会計業務のアウトソーシングや弁護士との法律顧問契約を締結し、更なる透明性ある法人経営や、安心・安全な法人運営ができる環境整備を整えました。

更に支援記録システムの入れ替えを行い、次年度より支援記録から国保連への請求業務まで一元管理ができる体制を整え、施設間での連携もとれるシステムの構築準備を行いました。

(2) 外部因子への対応

① 時間外労働への規制

時間外規制の義務化が実施されておりますが、健康で自分時間、家族時間を充実させていく為に残業時間を50%削減を目標としました。（年間600万円、一人当たり月6時間、1日20分）

しかしながら新型コロナウイルス感染症の感染拡大に留意しながら、少しずつイベント等の実施を図った結果、残業時間の削減には至りませんでした。引き続き取り組んでまいります。

② 育児、介護休業法改正へ取り組み、処遇改善手当などの整理

(1) 育児、介護休業法が10月に改正され、「産後パパ育休」「育児休業の分割取得」等の整備を行いました。

(2) 「福祉介護職員処遇改善臨時交付金」が2022年9月で廃止となり、10月より新たに「ベースアップ等支援加算」が創設されました。それに伴い申請手続き及び規程の改正を行い、職員への支給を行いました。

③ 給与表と人事制度の見直し

人事システムの見直しを行いました。もう一度職員面談の頻度、時期、内容の平準化に取り組みました。数年取り組んでいると暗黙化してしまい、見える化、言語化していく事で管理者の育成への取り組みの平準化を行い、水準の底上げを行いました。

④ 薬師池公園四季彩の杜計画の充実

2020年に薬師池公園付近にゲートハウスがオープンし、イベント開催が増えてきています。町田ダリア園やこころみへお客様が足を運ぶ機会が増えていきます。今年度も積極的にイベントの発案、協力していきコラボイベントを行いました。観光コンベンション協会が主催した春フェアに協力し、ダリア園内でのセグウェイ体験や野草の調理に使う野草の収穫、人力車の起点など。多くの方が集う場所になりました。また、西園と協力し、寄せ植え親子体験教室を2日間行いました。

⑤ 蓮田整備事業（公園化計画）での蓮田の在り方の検討

大賀藕絲館での蓮田作業や蓮の実の確保は大事な事業であります。町田市蓮田公園（仮）化に向けて、障がい福祉課、公園緑地課とも意見交換、情報共有を行っています。

(3) 事業推進

① 大賀藕絲館の給食設備の検討

高齢化、重度化への対応の中で給食設備の検討を開始しました。設計、見積を形にして、敷地、既存の建物で何が出来て、何が課題かを明確にして、建築設計業者との打ち合わせを開始しました。見積、設計案を依頼しました。

② こころみ、かがやきの事業統合の実施

近隣自治会、町田市、東京都と調整を進め、書類提出が可能な状態まで進めて参りました。事業統合でコンパクトな経営を目標にしておりましたが、利用者が90名を超える規模になり、同一施設内ではなく近隣施設の2拠点の管理、内部統制の難しさがある為、次期中期経営計画の中で白紙から計画を練り直す事にしました。この事業計画の目標から取り下げます。今後も会議や医療面の協力、イベント等の開催は連携を密に図り取り組んでいきます。

③ 忠生地域障がい者支援センターにおける地域生活拠点等の機能を取り組む

地域の体制づくりとして、忠生エリア凸凹ネットワーク、地域ケア推進会議、法人連相談支援事業所連絡会、町田市相談支援事業所連絡会など、地域の相談支援事業所や高齢分野の事業

所等と連携を図りました。今年度から、グループホームを対象にしたネットワーク会議も始めました（忠生エリア GH 凸凹ネットワーク）

計画相談とびらの新規利用契約を停止しました。200件弱の契約数があり、これ以上の利用契約はサービスの質を落とし、1人1人に寄り添った相談が困難と判断しました。

④ ひかり療育園の安定的な運営とさらなる充実の検討

今年度から民間移譲により事業が開始されました。安心安全を第一に引き継いだ事業の安定的な運営を行っています。特に入浴事業はまちだ育成会でも経験のない事業でもありました。入浴ニーズも高い事から、現状を維持しさらなる充実を検討し、機械設備も古いことから入れ替え検討等を進めました。高次脳障がい相談事業もとびらと連携を図り、さらなる充実した相談体制を構築していきます。

⑤ 名産品の店「心和」のさらなる充実について

利用者の帰宅時間等の働く環境改善の一環で営業時間の見直しを図りました。小田急町田駅の目の前、人通りの多い場所に心和があり、まちだ育成会の販売の拠点となる販売場として、さらなる充実を図っていきます。

(4) 財務規律の確立

① 経費の削減

報酬改定で厳しくなった事業もあり、業務委託費の削減に取り組みました。清掃、点検等の契約を法人全体で取り組む事でスケールメリットを活かした経費の削減へ繋げました。

② 通帳管理・報酬等請求業務の一元化

通帳等の資金管理、国保連等各種報酬の請求事務など法人本部での「一元化」に引き続き取り組みました。担当者だけでは取りこぼしのあることも、職員同士進行状況を確認できることで改善が図られ、施設事務負担の軽減に加え、施設運営の理解を兼ねた総合力強化が図られました。

③ ネットバンク、キャッシュレスへの取り組み

全社的なネットバンクの導入により現金支払いの機会の更なる削減に努めます。昨年度は「paypay」の導入を行いました。さらなる利便性・安全性の観点からキャッシュレスへの対応を継続的に実施していきます。

④ 適切な人員配置

事業所ごとの人件費率や職員数の見直しを引き続き行いました。人だけでなく工夫や取り組みも他事業所や他法人の取り組みも取り入れながら検討をしました。代行サポート職員体制も2年が経過し形が出来てきました。今年度は2名体制となり、急な職員の欠員、不足事態に対応する職員がいる事で困った時に法人全体でサポートしていく文化、風土が構築されました。

(5) 地域との連携継続・強化

① 地域団体等との連携

町田市、町田市社会福祉法人施設等連絡会、町田市社会福祉協議会、特定相談支援事業所、特別支援学校等と引き続き連携、協力関係を保ちます。

② 障がい者支援センターを中心とした連携の強化

忠生地区協議会及び高齢者支援センターとの関係性がますます深まってきました。高齢化対策も踏まえ引き続き連携の強化を図ります。また、自治会（町内会）、警察署、医療機関、教育機関、消防関係など、地域住民とのネットワーク形成にも積極的に取り組みました。

③ ひかり療育園高次脳機能障がい者相談事業を中心とした医療ネットワークの連携と構築

高次脳機能障がい者相談事業は医療と繋がりが大事になってきます。ひかり療育園が持っている医療ネットワークを引継ぎ、さらに連携強化を図り充実した医療、福祉の繋がりを充実させていきます。南多摩圏域での他市の連携を行いました。

④ まちだ育成会後援会との協力関係強化

引き続き積極的に運営に関わり、会員数の増加、施設行事の活性化を推進しました。

麺類の販売以外に新たな商品を検討し、11月に会員へチラシを配布し新商品をご案内しました。

後援会員専用広報誌「がっしゅうこく〈後援会版〉」は、施設の裏側を知っていただく内容で大変好評を得ています。

⑤ 法人保護者会の開催

2年間新型コロナウイルス感染拡大で開催できていませんでしたが、今年度は7月と1月に法人保護者会の開催することができました。7月には32名、1月には25名の保護者の皆様に出席頂きました。親なき後の不安感やグループホームの増設また送迎事業についての声が多くありました。

⑥ 手をつなぐ育成会との連携

今年度も全国、東京都ともに手をつなぐ育成会との連携を継続しました。

⑦ 町田市知的障がい者育成会との連携

都議、市議との懇談に出席し、相談事業の報酬課題やグループホームの報酬などについて意見交換を行う場に参加しました。今後も情報共有を図りながら連携を行います。

(7) 会議と委員会整理と可視化

① 理事会、評議員会、苦情解決第三者委員会の開催

会議名	開催日	おもな審議事項
理事会	6月10日	第3次補正予算、2021年度事業報告書(案)、2021年度決算報告書(案)、定時評議員会の開催(案)について、まちだ育成会医療的ケアに関わる指針等の制定について
評議員会	6月25日	2021年度計算書類及び財産目録の承認について
理事会	9月8日	理事長の勤務と報酬について、給与規程の改正について、有期嘱託・有期契約職員就業規則の改正について、有期専従職員就業規則の改正について、経理規程の改正について、町田市大賀菟絲館〈心和〉営業時間変更に伴う運営規程及び重要事項説明書の改正

		について、グループホーム「にし」運営規程及び重要事項説明書・契約書の改正について
理事会	12月8日	上半期事業報告、上半期決算報告、経理規程の改正について、運営規程の改正について、育児介護休業規程の改正について、就業規則の改正について、第一次補正予算、定款細則の改正について
理事会	2月17日	身体拘束適正化のための指針について、就業規則の改正について、有期嘱託・有期契約職員の就業規則の改正について、有期専従職員就業規則の改正について、管理職人事
理事会	3月28日	第二次補正予算について、中期経営計画について、2023年度事業計画について、2023年度当初予算について、運営規程の改正について、役員等賠償責任保険契約について
苦情解決第三者委員会	1月23日	生活介護事業所「ひかり療育園」の見学 法人の状況報告等
経営会議	月2回	法人運営や新型コロナウイルス感染対策の整理等
運営会議	月1回	衛生委員会との連携、支援記録システムの見直し、各施設情報共有等

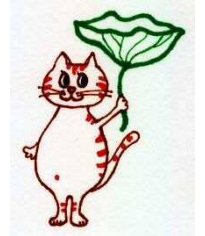
② 各委員会の機能強化

法人委員会名	内容、目的
法人災害対策委員会	地震、水災、風災、ウィルス等に備える為に情報共有、検討を行う。訓練等の実施 BCPを活用した訓練の実施
法人広報委員会	法人広報誌の年3回の発行 後援会特別広報誌を発行
法人送迎委員会	法人全体での最適化した送迎への検討 ひかり療育園のマイクロバスの活用を検討
法人虐待防止、危機管理委員会	虐待防止の取り組み、安全衛生の観点で危機管理を検討する。
あじさいの会（利用者自治）	利用者からの意見を聞く場、利用者主体な施設運営の検討。
支援スキルアップ委員会	サービス管理責任者などを中心に利用者支援の充実を図る。 高齢化準備の会を実施する。視察研修の検討 研修の計画、立案
情報発信委員会	ホームページリニューアル（ひかり療育園ページ等） SNS（Instagram）の開始 法人や施設取り組み、魅力を発信し、まずは地域や福祉を知っていただく機会・目につく機会を作っていく、採用時に活用していく。



2022 年度 町田市大賀藕絲館事業報告

施設長 清水愛



はじめに

改修工事により、3月中旬にご利用者、職員共に分散していた拠点から、4カ月ぶりに施設で全員集合することが出来ました。施設外部には3月末まで、足場がかかり、4月には改修工事が完全に終わりました。

4月は、3年ぶりの尾根緑道のさくら祭りが開催されましたが、改修工事により、ご利用者の参加できる行事として、さくら祭りが出来ませんでした。ただ、売店を開け、トイレを利用された地域の方々からは改修工事で綺麗になったトイレを喜んで頂き、たくさんの方が声をかけて下さいました。6月紅花祭り、7月ハス祭りは昨年度よりも規模を大きくし、売り上げも昨年度を上回りました。年末の商品販売は、今年も完売することが出来ました。

余暇活動では、久しぶりの開催となる11月の町田市スポーツ大会では、ご利用者が真剣な表情を浮かべ、スポーツを楽しむ姿が印象的でした。1月には、いちご狩りへ外出し、3月には調理実習を久々に行い、ハンバーガーを作りました。大きな口を開けて食べる方、パン、お肉、野菜と分けて食べる方などご利用者の個性が見られました。

作業も行事も充実した内容で、1年間を過ごすことが出来ました。

ご利用者の大きなケガが3件あり、高齢化や職員が見えない部分での支援を考える機会となりました。ケガをしたご利用者は、車いすを使用していましたが、リハビリを重ね、また単独で歩ける程、回復してきたことが嬉しい限りです。下半期はちょっとした車両事故ではありますが、毎月事故が発生しており、送迎職員へ注意を促し、再発防止策を考えました。

4月から、ご利用者も職員も作業班の構成を新たなメンバーで組み、新たな取り組みも始めました。その為、様々な新たな課題が見えてきました。ご利用者に対する支援について、職員各々の考え方ややり方についてなど、言い合える機会を作り、課題解決に向けて話し合えるような関係性作りを行ないました。

1 施設経営状況報告

◇1-1 利用者数、出勤率

(1) 利用定員：60名（現員64名）

入所者 3月に1名

事業名	定員	2022 年度平均出勤率	2021年度平均出勤率
就労継続支援B型事業『蓮』	40名〈現員41名〉	77.4%	78.3%
生活介護事業『紅』	20名〈現員23名〉	91.7%	90.2%

◇1-2 職員数、有休取得率、離職率

(1) 職員数 : 34名

- ・施設長 1名
- ・就労継続支援B型事業『蓮』 10名 常勤換算4.2
- ・生活介護事業『紅』 17名 常勤換算11.6
- ・有期専従職員 6名

(2) 有休取得率 55%

(3) 離職率

14.7%

月	入職・復帰	退職	対象
6	1名		有期契約職員
7	1名		有期契約職員
8		2名	送迎添乗員
10	2名		添乗職員
1		1名	有期専従職員
3		1名	正規職員

◇1-3 就労会計

就労事業	2022年度	2021年度
蓮事業収入	3,607,988円	2,922,832円
ハスの実工房事業収入	3,074,621円	1,905,746円
紅花事業収入	611,051円	518,678円
請負事業収入	293,133円	343,465円
その他の就労事業収入	498,251円	166,441円
売店事業収入(心和)	2,653,413円	2,581,359円
合計	10,738,457円	8,438,521円

◇1-4 工賃

	就労継続支援B型事業 『蓮』	生活介護事業 『紅』	全体
1日工賃額	600円 心和1,200円	600円	
平均工賃	11,653円	13,003円	12,159円
ボーナス平均 (夏・冬・期末)	18,553円	20,000円	19,098円
総支給額	5,302,000円	3,549,700円	8,851,700円

◇1-5 給付収入、委託収入

(1) 給付費(指定管理事業)収入

月	蓮(B型)	紅(生介)	合計
4	4,634,521	5,825,771	10,460,292
5	4,356,658	5,508,698	9,865,356
6	5,283,094	6,321,568	11,604,662
7	4,585,927	5,413,083	9,999,010
8	4,563,408	5,532,766	10,096,174
9	4,654,268	5,736,053	10,390,321
10	4,754,211	5,865,859	10,620,070
11	4,889,447	5,954,832	10,844,279
12	4,550,982	5,640,185	10,191,167
1	4,497,985	4,836,382	9,334,367
2	4,413,899	5,365,089	9,778,988
3	5,431,424	6,192,684	11,624,108
合計	56,615,824	68,192,970	124,808,794

(2) 委託収入

	収入
ハス栽培管理委託収入	4,343,773 円
紅花栽培管理委託収入	167,200 円
薬師池公園ハス管理業務委託	1,765,500 円

◇1-6 修繕実績

- ・6月 自動ドア修理 町田市

◇1-7 助成金

- ・特になし

◇1-8 固定資産になる物品等

- ・廃棄 4月耕運機
- ・購入 5月耕運機 502,415 円
- ・廃棄 9月冷蔵ショーケース

2重点項目に関する報告

◇2-1 事業計画に設定した項目の進捗を報告

(1) ご利用者が安心して過ごせる環境作り

- 新型コロナウイルス感染症の流行の為、ご利用者と職員共にマスク着用、検温、体調確認、手洗い等の指導を行ないました。
- 作業室の配置換えや1日のスケジュールの再検討を各作業室にて行ないました。
- 大きなホワイトボードを活用し、ご利用者へ予定伝達や作業など、分かりやすくしました。

(2) 工賃を維持向上していくための製品作り

- 桜祭り時期、紅花時期と蓮時期にポイントを絞って、製品を考案しご利用者への作業提供へつなげました。どのお祭りも昨年度の売り上げを上回りました。
- 施設の継承作業である、紅花餅の作成や蓮の繊維取りを行ないました。紅花餅の売れ行きが良く、増産をしました。
- 物価高騰により、材料費や肥料の値上げ等を踏まえ、商品の価格をあげました。

(3) 職員のチームワークの構築

- 職員体制の組みなおしを行なった為、コミュニケーション不足等により職員間で信頼が形成されず、支援において上手くいかない場面がありました。話し合う場を設け、また、チームとして動いていける為に今後もケース検討会や打ち合わせを継続して入れていきます。

(4) 畑作業の引継ぎ

- 畑作業の職員各々が、作業の見える化に取り組みました。
- 月一回畑作業職員のみで引継ぎの内容を盛り込みながら畑チーム会議を行ないました。ご利用者の畑作業の入り方、畑作業を入れる目的、畑での新しい取り組み等を話し合いました。
- 新しい取り組みとして、ジャガイモとさつまいもの栽培、販売をしました。

(5) 心和での新しい取り組み

- 心和のご利用者が大賀ぐうし館に来館し、心和へ納品する商品を考える取り組みを行ないました。
- 9月より、まちだ名産品の認定が行われ、新たな商品の展開がありました。

(6) 給食設備の検討

→2 階の台所を中心とした給食設備の設置を設計事務所、設備会社へ依頼しました。

→この重点項目に関する以上 6 点を 9 月の職員会議にて、再度、周知し、実績確認をしました。

3 その他の報告

◇3-1 就労（作業）

→・重点目標 2-1（2）参照

→美術工芸館との紅花作業、内職作業の取り組みや、かがやきと花壇管理の作業を連携して行いました。

◇3-2 余暇活動（行事）

活動名	内容報告
外出活動	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月から2月まで、8つの班に分かれて外出活動を行います。 →各班ごとに集まり、行先や食べたい物など話し合いました。 →高尾山やよみうりランド、サンリオピューロランド、牧場など各グループごとに外出しました。 ・ご利用者の誕生日に 100 円ショップにてお買い物に行きました。 →誕生日に 300 円程度の金額でお買物をしました。 →外出できないご利用者は、楽しそうに商品を選びお買物をしていました。
生活活動	7月 ゼルビー君と体を動かそう 11月 体にいいお昼ごはんを買いにいこう

◇3-3 委員会の報告

委員会名	内容
送迎	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、安心して通えるよう安全な送迎を心懸けます。 →新型コロナウイルス感染症の流行もあり、窓の開閉や消毒、送迎職員の体調確認などを行いながら、毎日の運行が出来ました。 ・月 1 回、送迎にかかわる職員間での打ち合わせを設けます。 →年度途中の新規職員の入職もあり、打ち合わせを通して情報共有に努めました。 →送迎職員からのルートの指摘や声を拾いながら、スムーズな運行が出来ました。
虐待防止・人権権利擁護委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人権侵害や虐待の防止の視点を確認する為に、年に一回人権擁護・虐待防止のチェックリスト行います。職員会議にてチェックリストの結果を考察し、日々の支援に振り返る機会を設けます。 →毎月の職員会議にて、ヒヤリハットや事故報告を行ない、その後の様子確認を行ないました。 →3 月に人権チェックリストを行ないました。
防災・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・大賀藕絲館災害時事業継続計画（減災計画）を検討していきます。 →法人の災害対策委員にて作成された BCP を確認しました。 ・ご利用者全員の緊急時用ポーチ（3 日分の薬・ご利用者情報）の更新や整理を行ないます。 →ご利用者全員の緊急時用ポーチの更新や整理を面談時に行ないました。 ・年に 2 回の訓練を行ないます。 4月 地震避難訓練 9月 火災避難訓練 桜美林台自治会の方と一緒に行ないました。 2月 火災避難訓練 花の家まで避難をしました。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者や職員が楽しみで美味しい昼食が提供できるよう努めます。 →給食業者とメニューの調整を行ないました。 →暑気払いには、そうめんやスイカの提供をしました。また、季節の果物の提供をしました。
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、SNS（フェイスブック・インスタグラム）を利用し、施設の情報を発信していきます。

	<p>→月に10回程SNSをアップし、施設情報の発信を行ないました。</p> <p>→毎月、施設の情報をのせたぐうし館SNS便りの発行を行ないました。</p>
保健	<p><ご利用者の健康状態の把握></p> <p>→出勤してきた際、日中など体調に変化があった場合は、ご家庭やGHと連絡を取りました。</p> <p>→毎月、体重と血圧測定を行い、欠席者に対しても、後日行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の健康診断受診の機会を設けます。 <p>→6月に嘱託医による内科健診を行ないました。9月にご利用者38名の健康診断を行ないました。</p> <p><感染症対策></p> <p>→ご利用者へ、毎日の検温や手洗いの確認を行ないました。</p> <p>→作業室内の二酸化炭素濃度や気温、湿度の計測を行ないました。</p> <p>→8月、1月に新型コロナウィルスワクチン予防接種を行ないました。</p> <p>→11月にインフルエンザの予防接種を行ないました。</p> <p><訪問歯科></p> <p>→毎週1度の訪問歯科の診察が行なえるよう調整しました。</p> <p>→診察があった方に対しては、連絡帳やお手紙にて報告をしました。</p> <p><訪問カット></p> <p>→毎月1回、ご利用者が20名前後参加しました。</p> <p><服薬管理></p> <p>→昼食時の服薬忘れが無いか、毎日チェック表を使い確認を行いました。</p> <p>→外出時や忘れた時には、緊急時ポーチを活用しました。ポーチにも入っていない場合には、ご家庭やGHへの連絡を行ない、飲み忘れなく調整しました。</p>
美化	<p><安全管理></p> <p>→施設内に危険が無いよう整理整頓に努めました。</p> <p><清掃パトロール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2カ月に1度、施設の近隣の掃除をご利用者と共に行いました。 <p>→施設近隣の清掃へ、ご利用者と共に行ないました。</p>
工賃向上・売店	<p><工賃向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の工賃維持、向上に対する意識向上に努めます。 <p>→月に2～3回出店を行ない、職員がご利用者と一緒に販売する楽しみや作った物が売れる嬉しさを感じました。</p> <p>→インターネット販売で、商品が初めて売れました。</p> <p><売店></p> <p>→お客様が来店し楽しんで頂けるような商品陳列や季節毎の模様替えを行ないました。</p> <p>→5月より、売店前に自動販売機の設置を行ないました。昼休みの休憩時間に購入するご利用者や外を散歩している方が購入しました。</p>
ハッピー会	<p>ハッピー会内容について</p> <p>→4月ハッピー会の司会について、グループ活動について、個別支援計画について、自販機について</p> <p>5月あじさいの会代表について、第三者評価について、ご利用者感謝表彰規定について、グループ活動について</p> <p>6月 二十歳のお祝い、ご利用者感謝表彰式</p> <p>7月 グループ活動について、ご利用者からの苦情受付について、蓮田の見学について</p> <p>8月 日帰り旅行について、休み時間の過ごし方について</p> <p>9月 日帰り旅行について、朝の歌について、ひかり療育園見学について</p> <p>10月 手洗い講座、日帰り旅行の感想、映画の日について</p> <p>11月 お楽しみ会と新年会について、1月の土曜日活動について</p> <p>12月 冬休みの過ごし方、ごみの出し方、新年会の出し物について</p> <p>1月 新年会の感想、カラオケについて、ひかり療育園へ見学について</p> <p>2月 グループ活動について、さくら祭りについて、新しい入所の方について</p> <p>3月 さくら祭りについて</p> <p>→日々、職員とご利用者での会話の中で出てきた質問、確認事項をハッピー会のテーマとしてとりあげました。</p>

◇3-4 職員研修

- 以下の研修に参加しました。

月	研修内容	主催
4	初任者研修	法人
6	虐待防止研修	法人 講師：綿祐二
6	ご利用者の薬を知ろう	東京都社会福祉協議会
8	ダウン症支援セミナー	日本ダウン症協会
8	サービス管理責任者研修	東京都社会福祉協議会
3	「障害者支援施設等における高齢・重度化、強度行動障害への対応を考える」	東京都社会福祉協議会
3	本人中心の支援から虐待防止を考える	東京都社会福祉協議会
	SP ラーニングによる研修	

→職員会議の際に、研修報告を行ないました。

◇3-5 会議の開催状況

(1) 職員会議

→毎月、様々な情報共有や各職員の所属委員会の報告、作業班の様子など発表する場として活用しました。

(2) ケース会議

→毎月第二火曜日に行ないました。誕生月のご利用者の目標の確認や支援方法の検討をしました。

→誕生月以外のご利用者の支援において、困っている、どのようにしていくか等、職員全体でケース会議にて検討しました。

(3) フロアー会議

- 毎月、1 F、2 F 担当職員で作業状況、周知確認、ご利用者のケース会議などを話し合います。日々の支援を円滑に行ない、チームワークを高めていきます。

→1 階は毎月、2 階は2 カ月に1 度の頻度で行いました。

→作業状況、作業の方法、ご利用者の支援方法の確認などを話し合いました。

(4) 打ち合わせ

→毎朝、毎夕に定時にて行ないました。

予定の確認、その日のご利用者の様子や出来事を報告しあい、共有しました。

(5) 畑チーム会議

→さつまいもを植えたことで、ご利用者からリクエストがあったスイートポテト販売が出来ました。

→毎月1 回、情報共有や予定の確認などを行ないました。

◇3-6 リスクマネジメント（ヒヤリ、事故）

(1) ヒヤリハット

- 常に、ヒヤリハットの意識を持ち、危険を察知できるよう職員の意識付けを行い、すぐに記録が記入できるようにします。

→日々の打合せにて、ヒヤリハットや事故報告、また、ちょっとした職員自身のミスを発表する「おっと」という項目を設けながら、確認を行ないました。

→職員会議で振り返りを行い、改善策を考えました。

(2) 事故

→事故が起きた場合は、速やかに報告すると共に、解決に向けた対策を行いました。

	ヒヤリ(おっと含む)	事故
4月	15件	
5月	8件	
6月	7件 心和1件	
7月	8件	1件服薬ミス・1件ご利用者転倒
8月	4件	1件器物損壊・心和1件請求金額ミス
9月	13件	2件ご利用者転倒
10月	8件	1件車両事故・1件釣銭ミス・1件送迎連絡ミス
11月	9件	1件車両事故・1件車両事故・1件器物破損
12月	9件	1件車両事故
1月	8件	
2月	10件	1件車両事故
3月	11件	1件車両事故

→事故内容

・7月、9月のご利用者の転倒について

7月のご利用者の転倒事故は、トイレにて立ち小便器のバーをつかみ損ねた為に、そのまま後ろに転倒しました。職員が目撃者なく、トイレに入ったご利用者が職員に報告を入れました。頭頂部を3cm程裂傷しており、服薬の面から止血が難しかった為に、救急車を呼び、病院へ向かい、処置をしました。

9月のご利用者の転倒事故1件目は、身体障がいをお持ちのご利用者で、職員がご本人のロッカーまで付き添い、ロッカーについてから、職員が離れている間に転倒していました。ご本人が水筒に水を入れたいと真後ろの流しへ方向転換した所、足がもつれて床へ尻もちをつきました。職員がご本人の様子を見に、ロッカーへ戻ると、床に座り込んでいる状態でした。当日は様子を見て、翌日に通院をしました。脊椎圧迫骨折と診断されました。通院や通所において、職員で同行や検討しながら、ご本人が通所できるよう整えました。

9月のご利用者の転倒事故2件目は、外出から施設へ戻ってこられ、2階へ階段を上っている間に転倒し、左頬骨あたりを段差で打ち、裂傷しました。職員の手当てで止血し、ご本人の様子から救急車を控え、施設の職員で通院をしました。また、翌日に左胸に青あざが広がり、整形外科へ通院し、打撲と診断を受けました。

立て続けにご利用者の転倒事故があり、職員会議や打ち合わせにて、ご利用者の高齢化や作業室の環境整備について話し合いをしました。また、ご利用者へ、転倒することが事故につながる事や体を動かし体力を維持する事の大切さをご利用者の意見交換の場で話しました。

・下半期の車両事故について

送迎の際に、ポールやガードレールに車両をこすることが度々ありました。対物事故ではありませんが、その都度、注意を促しました。

◇3-7 苦情解決

・苦情を受け付けた場合は、すぐに報告をし、早急に解決に向けた対策を検討します。

・些細な苦情も受け入れ、相談者に寄り添った解決をします。

→上半期2件ありました。

月	内容
6	内科健診の結果報告の書式について 保護者のご意見を伺い、ご説明した上で次回の結果に生かす方向で納得いただきました。
7	配布物の誤発送について 後見人の方へ謝罪し、個人情報の流出につながるという事を認識し、事務職員、該当職員へ指導しました。

◇3-8 実習生、ボランティア

(1) 実習生

→以下の実習がありました。

月	実習生受け入れ先
4	なし
5	他事業所ご利用者 1 名・町田の丘学園高等部 3 年 1 名
6	町田の丘学園高等部 3 年 3 名 町田福祉保育専門学校 1 名
7	町田の丘学園高等部 3 年 1 名・町田の丘学園高等部 2 年 3 名
8	町田の丘学園高等部 2 年生 1 名
9	他事業所ご利用者 1 名・町田の丘学園中学部 2 年 3 名
10	町田の丘学園高等部 2 年 2 名・
11	一般実習 2 名
1	町田の丘学園高等部 1 年 1 名
3	一般実習 1 名

(2) ボランティア

- ・ボランティアを受け入れ、作業のお手伝いをお願いし、ご利用者と一緒に作業して頂きます。
- ・外部の目を入れる事で、客観的に見て頂き、常に適切な支援が出来る力をつけていきます。

→新型コロナウイルス感染症の影響で、来館できない期間もありましたが、作業量の多い時期はお手伝いしていただきました。

月	4	5	6	7	8	9
人数	4名	5名	4名	13名	13名	15名
月	10	11	12	1	2	3
人数	13名	19名	21名	11名	20名	21名

◇3-9 地域交流

(1) 地域貢献活動

→施設周辺の清掃活動を行いました。尾根緑道、プール周辺などで行いました。

→年 13 回の地域清掃を行ないました。

→2023 年度から忠生地区協議会を中心とした買い物バスかしのみの運行に携わらないかと、お誘いをいただきました。施設の送迎車を利用し、地域課題である高齢者の買い物支援を行なうために、関係各所と打ち合わせや試運転などの準備を行ないました。

(2) 祭り

→4 月さくら売店約 280 名、6 月紅花まつり約 280 名、7 月ハスまつり約 400 名の来場があり、開催しました。

(3) 染め講習会

→5月紅花の間引き菜染め講習会 5名が参加されました。

8月藍染講習会 3日間分けて行いました。13名（内3名子供）が参加されました。

3月紅花染め講習会 6名が参加されました。

◇3-10 保護者会

・年3回の保護者会を開催します。

・保護者会を通して、日頃の活動や取組みについて報告をします。

→5月、9月、2月に保護者会を行ないました。

→保護者会では、保護者の視点からのご意見を伺うことが出来ました。

◇3-11 その他

7月～8月 新型コロナウイルス感染症がクラスター発生しました。

ご利用者12名と職員5名の感染者が出ました。

感染拡大防止の為、8月2日から2日間閉所しました。



2022 年度美術工芸館事業報告

施設長 植木 敦

はじめに

今年度、新規のご利用者が1名入所され、69名で始まりました。年度途中で3名のご利用者が退所されています。

新たなフレッシュさを持って、生まれ変わる美術工芸館を目指しました。

その結果、職員同士が声を掛け合い、助け合いながら作業や利用者支援を行い、これまでに経験のない行事やイベントの際には、経験がある職員が未経験の職員に教えるなど、ご利用者のために職員一致団結する姿が見られました。

行事としては、5月に東京都障がい者スポーツ大会、10月に久しぶりに一般の方にも参加をして頂いた美工フェスティバル、11月には型入式に副市長はじめ、町田市の関係者や多くの方々をお招きして行いました。また、12月には3年ぶりの旅行で山梨へ行き、施設外での行事を楽しむ事が出来ました。土曜日活動では、12月クリスマス会、1月成人を祝う会、2月ポッチャ大会、3月プラネタリウム見学と外食を行いました。生活活動では、ひかり療育園と合同でキッチンカーのクレープを食べたり、ハンド&ネイルケア、カラオケ大会を行いました。コロナ禍ではありましたが、徐々に行事やレクリエーションをコロナ前に戻して行う事が出来ました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大でご利用者と職員共に多くの感染者を出し、やむなく3日間の施設閉所をしました。施設内の消毒、感染対策を徹底した事と体調管理面でも保護者のご協力もあり感染拡大も防ぐ事が出来ました。しかしながら、感染予防で出勤を自粛するご家庭を多く、出勤率が低下しましたが、重篤化するご利用者はおりませんでした。その様な困った状況の中においても職員の結束や協力しあい支援にあたる事が出来た事が良い経験であり、今後の感染対策や利用者支援に繋がる結果となりました。

1 施設経営状況報告

◇1-1 利用者数、出勤率（入退所の情報）

入所者：・4月1名

退所者：・6月ご利用者1名に他施設へ入所の為、退所されました。

・8月ご利用者1名医療施設へ入所の為、退所されました。

・2月にご利用者1名がお亡くなりになりました。

・就労継続支援B型事業〈創〉 現員27名

平均出勤率：84.92%（2021年度85.95%）

・生活介護事業〈奏〉 現員39名

平均出勤率：78.93%（2021年度80.84%）

◇1-2 職員数、離職率

職員数

就労継続支援B型事業〈創〉 6名〈常勤換算：4.6〉

生活介護事業〈奏〉 13名〈常勤換算：12.6〉

有期専従職員（送迎） 6名

有期専従職員（調理） 6名

離職率

34.4%

入職者 9名 退職者 11名

◇1-3 就労会計（通所のみ）

就労事業	2022年度	2021年度
干支事業収入	6,831,440	6,919,962
キャンドル事業収入	180,447	293,107
内職事業収入	832,227	745,854
その他の就労支援事業	276,275	218,355
合計	8,120,389	8,177,278

※昨年比約6万円減です。

◇1-4 工賃実績

・ 1日 400円

・ 平均工賃

	2022年度	2021年度
平均	6,767円	6,899円
B型	6,614円	7,339円
生介	6,918円	6,588円

・ 工賃支払 実績 5,187,000円（2021年度5,395,600円）

◇1-5 給付収入、委託収入（実績ベース）

【給付費収入】

月	就労継続支援B型	生活介護	合計
4月	3,366,820	6,976,463	10,343,283
5月	3,155,841	6,628,253	9,784,094
6月	3,897,795	7,559,874	11,457,669
7月	2,919,146	6,300,266	9,219,412
8月	2,981,019	6,398,140	9,379,159
9月	3,418,832	6,709,190	10,128,022
10月	3,537,210	6,887,673	10,424,883
11月	3,332,219	6,613,478	9,945,697
12月	3,415,272	6,323,036	9,738,308
1月	3,264,388	6,323,380	9,587,768
2月	3,327,859	6,396,400	9,724,259
3月	3,894,661	7,488,321	11,382,982
合計	40,511,062	80,604,474	121,115,536
前年比	▲2,649,954	+2,138,742	▲511,212

※前年比約51万円減収

【委託収入】

・ 製品作成委託料 6,611,930円（前年比▲106,780円）

◇1-6 修繕実績

・ 厨房ガスコンロ（町田市）

・ 玄関自動ドアユニット交換（町田市）

◇1-7助成金
該当なし

◇1-8固定資産になる物品等
該当なし

2重点項目に関する報告

◇2-1 助け合える組織の構築

- ・各階フロア会議を月一回行い、報連相の徹底、衛生面、ご利用者への個別の支援方法や作業提供についての話し合いを行いました。また、日によって職員の休みが多いセクションがあれば、他のセクションでカバーするなど、徐々に助け合いの体制が出来てきました。支援以外にもケース記録を付ける時など、自分の担当以外のご利用者の記録も打ち込みを行うなど協力をし合う姿がありました。

2-2 サービスの向上

- ・職員全員が個別支援計画に携わった事によって、ご利用者への支援に繋がりました。
- ・60 歳以上のご利用者に対して、歩行訓練やストレッチ運動で体力維持を行いました。
- ・個室対応のご利用者に対して、日中の活動として職員と他のご利用者と一緒に散歩に行く事ができました。

2-3 事業計画に意識を持ちます

- ・事業計画を職員会議の時に読み合わせをしました。その結果もあり、2-1、2-2、2-4 の重点目標も出来きました。特に、2-2 サービスの向上は前年度までの考え方だけでなく、異動職員や新規採用職員の意見を多く取り入れる事でサービスの向上に繋がりました。また、職員がご利用者一人ひとりに向き合い、個別支援計画進捗状況や支援に困った時は、他の職員からアドバイス受け支援に活かしていました。

2-4 ひかり療育園・地域との連携

- ・生活活動では、ひかり療育園との合同でクレープを食べる企画を行いました。
- ・日頃から機材の貸し借りを行った事で、両施設の職員とのコミュニケーションが取れました。
- ・町会の納涼の集いがコロナウィルス感染拡大の伴い中止となり、交流を深める事ができませんでしたが、美工フェスティバルでは近隣のお子さんや多くの方がお見えになり、工芸館を知ってもらう事が出来て、地域交流が図れました。

3その他の報告

◇3-1 就労（作業）

(1) 干支作業

- ・計画的に制作を行いました。
- ・ご利用者に合った作業手順をお伝えし、作業提供をしました。
- ・前年度に比べ、不良の数はとても少なくなっています。
- ・出生数の減少により、昨年度より 149 個少ない納品数でした。

(2) キャンドル作業

- ・季節の花のキャンドル、新作の花ぼっくりリース製作をしました。その他に松ぼっくりの加工や雑巾縫いの作業をしました。

- ・ キャンドル作業以外にも、タオルたたみや内職作業の手伝いを行う事でご利用者に多くの作業提供が出来ました。

(3) メダル

- ・ 利用者の勤続感謝表彰に使用するメダルを作成しました。
- ・ 昨年はコロナウィルス感染症で中止になった岡山県フライングディスク大会が、今年度は開催される事になり受注を頂く事ができ、メダルの作成をしました。
- ・ メダル作業以には、内職の封入作業やタオルたたみの作業、鍋引きの制作なども行いました。

(2) 受注作業

- ・ CD/DVD の仕分け作業を開始しました。ご利用者の特性に合わせた作業工程を組み、効率よく作業することができました。
- ・ 昨年に比べ、タオルの受注量が増えてきました。それに伴い、タオル作業に携わるご利用者も増えました。他の作業が合わなかった方も、タオル作業をすることで落ち着いて取り組むことが出来ていました。
- ・ 昨年に引き続き、町田市より生活保護受給者の自宅へ配布するゴミ袋の箱詰めを、今年度も大賀藕絲館に協力していただきながら行いました。
- ・ 毎月月末に封入作業を行い、他のセクションから応援を得て行う事で普段は作業をする事のないご利用者が一緒に協力し、助け合いながら作業をしました。

◇3-2 余暇活動（行事）

(1) 生活活動

- ・ ひかり療育園との合同で「キッチンカーでクレープを食べよう！」という企画を行いました。青空のもとで、みなさん美味しそうにクレープを食べられていました。
- ・ ネイル&ハンドケアを行いました。男性のご利用者も参加され、普段はした事のないマニキュアを塗ってもらい、少し照れながらも笑顔が見られました。
- ・ カラオケ機材を借り、少人数のグループで分かれてカラオケ大会をしました。コロナ禍でカラオケボックスに行く事出来ない事もあり、久しぶりに思い思いの曲に乗せて熱唱をされていました。

(2) 行事

- ・ 久しぶりに行われた、東京都障害者スポーツ大会に参加をしました。小雨まじりの天候でしたが、みなさん元気に各種目に出場され、汗を流されていました。また、コロナ禍で自粛をしていた美工フェスティバルを今年度は近隣の方々をお招きし開催をしました。大道芸人の方に来て頂き、ジャクリングや手品、フラダンスのチームによる踊りも披露してもらいました。晴天の下で、唐揚げやフランクフルト、ジュースを楽しんでいたご利用者の笑顔がとても印象的でした。干支の型入れ式も、コロナ前に戻し、市からは副市長をはじめ、障がい福祉課、議員の方々にもご参加いただき、新しい干支のお披露目をする事ができました。

(3) 土曜日活动

- ・ クリスマス会、成人を祝う会、ポッチャ大会、プラネタリウム見学と外食等、コロナ禍で自粛をしていた活動をご利用者と職員が一緒になって楽しむ事が出来ました。

◇3-3 委員会の報告

(1) 防災委員会

- ・ 年に2回、9月と3月に地震発生による火災を想定した避難訓練を行いました。
- ・ 防災備蓄品の賞味期限の確認を行いました。

(2) 給食委員会

- ・ 毎月、栄養士、調理員と委員会を開催し、意見交換を行い、ご利用者の状況に合わせた食事方法を提供できました。
- ・ 嗜好調査の内容を毎月の献立に反映させ、ハンバーガーや麺類など、人気のテイクアウトメニューを取り入れた事がご利用者にはとても好評でした。
- ・ 給食注文票をリニューアルした事で、食数の把握が正確で容易できました。
- ・ 選択メニュー、誕生日メニューは継続して行っていました。

(3) 広報委員会

- ・ 7月に第1号の「美工レター」、11/28 秋号、1/31 冬号を発行しました。
- ・ 法人広報誌に工芸館の情報を発信しました。

(4) 工賃向上委員会

- ・ 近隣の斎場や教会より使い終わったロウソクをもらい受けた事で、材料費の削減をすることができました。

(5) 送迎委員会

- ・ 月に一回開催し、送迎ドライバー、添乗員との情報共有を行いました。
- ・ 車内の消毒、ご利用者の手指消毒を行い、新型コロナウイルス感染防止に努めました。
- ・ ご利用者に快適に乗車してもらう為に、常に安全運手に努めてもらう様、ドライバーと添乗員と情報交換を行いました。

(6) リスクマネジメント委員会

- ・ 3-6 記入

(7) 保健衛生委員会

- ・ 毎月、ご利用者の体重・血圧測定を行いました。
- ・ 訪問歯科にて歯科治療を行いました。28名のご利用者が治療をしました。
- ・ 6月30日(木)に嘱託医による内科健診を行いました。
- ・ 8月24日(水)に新型コロナワクチン予防接種4回目、1月20日(金)にはオミクロン株対応ワクチン5回目の摂取を行いました。
- ・ 9月21日(水)にご利用者52名の健康診断を行いました。
- ・ 11月9日(水)嘱託医によるインフルエンザ予防接種を行いました。

(8) 美化委員会

- ・ 施設周辺の環境整備に努め、掃き掃除や草取りを行いました。
- ・ 近隣のゴミ拾いを行っていました。

(9) 研修委員会

- ・ 3-4 参照

◇3-4 職員研修

日時	研修内容	主催者
随時	Special learning	
5/27	福祉制度を理解しよう	法人内
6/13	いまさら?これから?ACP 入門編	医療法人社団 平郁会
6/29	「続・利用者さんが飲んでいる薬を知ろう!-精神・神経に作用する薬を学ぶ-」	都社協

6/23	虐待防止研修	法人内
6月	個別支援計画書作成研修	法人内
9月	FUKISHI 新時代ワークショップ	法人内
11/15、16	サービス管理責任者研修	都社協
6/19、9/18 12/11、2/5	相談援助演習	アルファ医療福祉専門学校
11/30	高次脳機能障がいの理解と支援	法人内
2/22	当事者には居場所を 家族には支えを	法人内

※相談援助演習は職員 1 名が資格取得制度を利用して受講をしています。

◇3-5 会議の開催状況

(1) フロア会議

- 各階フロアリーダーを中心に、ご利用者の状況や作業の進捗状況を確認し合い支援に繋がりました。

(2) 職員会議

- フロア会議で出た意見や状況を報告し、情報共有や各員会に報告や予定の確認を行いました。

(3) ケース会議

- 誕生日月ごとに作成した個別支援計画を会議で発表する場をし、個々のケースの状況を職員全員が共有しました。

◇3-6 リスクマネジメント（ヒヤリ、事故）

事故	ヒヤリハット	合計
45 件	25 件	70 件

内訳

月	事故				ヒヤリ	合計
	他害	無断外出	転倒	その他		
4					5	5
5		1			3	4
6	1	1	2		3	7
7	1		3	1	1	6
8			2	1	4	7
9			2		3	5
10			3	4	2	9
11			3	1		4
12			3	2		5
1			1	2		3
2			1	2		3
3		1	2	5	4	12
計	2	3	22	18	25	70

(1) 事故

- ご利用者が午後にスポーツ大会の練習を中庭で行っていたが、施設外へ出てしまい行方が分からなくなった。すぐに職員が捜索をして、忠生市民センター前で発見した。その場で外傷などがないかを確認して施設へ戻った。
☞担当の職員を決めて、目を離さないに常に見守りを行う。
- ご利用者が午後の作業室にて職員へ作業確認をしようとした時に、他のご利用者の元へ突然寄り、髪を噛んでしまった。噛まれたご利用者は驚かれ泣かれたが外傷などはなかった。
☞ご利用者の様子をしっかりと見守り、落ち着かない時には、寄り添って対応をする。

- ③ 午後の作業が始まる前に歩行器からの椅子に座ろうとした時、椅子が動いてしまい尻もちをついてしまった。ご本人も痛みの訴えもなく、外傷はなかった。

☞椅子が動かない様に押さえてから座らせる様、また着席するまではしっかりと見守りを行う。

(2) ヒヤリハット

- ① 床に貼り付けたビニールシートの端が剥がれていて、足を取られ両膝をついた。
☞剥がれたシートの補修を行い、定期的に剥がれがないか確認をした。
- ② 休憩時に日課としているスクワットを行った際、しりもちをついた。
☞ご利用者の健康状況を観察し、疲れがある時は行わない様声掛けをした。
- ③ 朝、ご自宅からレスパイト表を受け取っていたが、いつも通りの時間に帰り支度をして送りだそうとしてしまった。
☞職員間でご利用者の予定の確認を行う様に徹底した。

◇3-7 苦情解決

- 7月6日～8日の3日間施設閉所を行い、3日分の工賃支給を行わなかった事で保護者からご意見をいただきました。閉所時の工賃の在り方を本部への確認不足があった為、改めて経営会議で確認を行い、閉所時の3日分の支給をしました。
☞施設閉所をした際は、感染者及び濃厚接触者以外（出勤できる状況にも関わらず、施設が閉所の為通所出来なかった方）のご利用者については工賃をお支払いする事が決まりました。

◇3-8 実習生、ボランティア

(1) 生徒実習生（特別支援学校等）

月	実習受入れ先
6	薬師中学校3年生（1名） 町田の丘学園2年生（1名）
7	町田の丘学園3年生（1名）
8	町田の丘学園2年生（1名）
10	町田の丘学園3年生（1名）
11	町田の丘学園2年生（3名）
1	町田の丘学園3年生（1名） 忠生中学校2年生（1名）

(2) 教育実習（福祉科、保育科実習生）

月	実習受入れ先
6	洗足こども短期大学2年生（2名） 町田保育福祉専門学校3年生（2名）
8	鶴見短期大学2年生（1名）
10	洗足こども短期大学2年生（2名）
11	洗足こども短期大学2年生（2名）
12	洗足こども短期大学2年生（2名）
1	洗足こども短期大学2年生（1名）
2	鶴見短期大学2年生（2名）

(3) ボランティア

- なし

◇3-9 地域交流

(1) 地域貢献活動

- 地域住民の方が工芸館前を通られた時は、笑顔で挨拶をしました。
- 月に1度道路清掃を行いました。

(2) 祭り

- 毎年行われている町会の納涼の集いは、新型コロナウイルス感染症で中止になりました。
- 今年度は、コロナ禍で自粛をしていた美工フェスティバルを開催しました。
近隣の方々をお招き出来た事で地域との交流が図れました。

(3) 講習会

- 毎年夏休みに行っているキャンドル講習会は、新型コロナウイルス感染症の為、開催していません。

◇3-10 保護者会

4、6、9、12、3月開催しました。懇談会を事前に行い、保護者の方々から多くのご意見や助言を頂きました。保護者会では法人からの情報、日頃の施設の活動や取組みを報告しました。



2022 度 ころみ事業報告

施設長 細川 哲郎

はじめに

4月に町田の丘学園からの卒業生を加えてスタートした新年度、前年度の入所者が先輩となり協力して作業を教える姿が見られました。9月に32年通い続けてくれたご利用者の永眠という悲しい出来事がありましたが、新しい利用者の力がその穴を埋め、また3月にも新入所者が加わり、新しいご利用者の活躍が目立った1年でした。

原木しいたけの栽培に関しては、町田市が進める里山環境活用保全計画に位置付けられる“市内の山林の再生と活用”として、その資源（間伐材）を原木として買取り、原木しいたけを栽培することで資源循環への取り組みに協力しています。小野路宿里山交流館の協力により、1月に小野路の里山の間伐木材（主にクヌギ）から102本を仕入れ、植菌しました。

原木しいたけの最適期である秋に、初めて“しいたけフェア”と題したイベントを開催しました。原木しいたけや乾燥キクラゲの詰め放題、ダリア園休憩所“木花”でのしいたけ蕎麦の提供、地元野菜の販売など、お得な体験ができるイベントとしてPRした結果、たくさんのお客様に来ていただくことが出来ました。ダリア園の開園期間とも相まって相乗効果にもなりました。天気が悪ければ無駄を出してしまうリスクもありますが、普段常連のお客様に支えられていることにより、今後も地元かつ新規のお客様にアピールできる大切なイベントとして今後も続けていきます。

新型コロナウイルス第7波、第8波の影響により、年間で感染者8名、濃厚接触者5名が指定期間の欠席を余儀なくされました。その他にも発熱や呼吸器症状による予防的な欠席もあったため、出勤率は前年を割り込みましたが、一人ひとりの体調管理とマスクや消毒の徹底もあり、施設内での感染拡大を防ぐことができました。作業の進め方なども欠席者が多い中で組み立てなければならず、職員と利用者すべてのチームワークが試されることが多くありましたが、無事に乗り越えることが出来、その結果として新たな作業の柱となる人材も見えてきました。

新型コロナウイルス感染症への対策に追われながらも、①作業提供の工夫、②感染防止策の意識付け、③欠席者が多い場合のフォロー体制、の3つに関しては、今後にも繋がる良い経験値として積みあがりました。人が変わっても“時代の変化に強い体制”を維持できるようにしていきます。

1 施設経営状況報告

◇1-1 利用者数、出勤率（入退所の情報）

現員 20名 平均出勤率 87.8%（前年度 90.0%）

入所者 2名（4月1日、3月1日）

退所者 1名（9月16日付） 9月17日 逝去

◇1-2 職員数、離職率

職員数 8名〈常勤換算：6.2〉

有期専従 3名（作業補助2、送迎ドライバー1）

※ その他として送迎添乗業務をシルバー人材センターへ依頼しています。

離職率 12.5% / 有休消化率 34.6%

◇1-3 就労会計（町田市からのこころみ事業補助金を除く）

就労事業	2022決算	2021決算	増加率
しいたけ事業	¥2,461,402	¥2,205,546	111.6%
野菜事業	¥1,326,918	¥1,048,290	126.6%
請負事業収入	¥705,940	¥887,400	79.6%
その他の事業	¥37,110	¥43,935	84.5%
合計	¥4,531,370	¥4,185,171	108.3%

※ 前年比 +346,199 円

※ 原木購入本数の増加により外作業の時間が多くなったことから、椎茸収入が増え、請負作業の収入が減少しています。

◇1-4 工賃実績

工賃 1日 500 円（前年度と同額）

工賃支払 2,297,750 円（昨年度：2,237,000 円） 昨年比：102.7%

夏季手当：夏季手当：2000 円、冬季手当：3000 円、期末手当：3000 円 を支給しました。

平均工賃 10,294 円（昨年度：10,316 円）

※ 出勤率は下がりましたが、前年度支給できなかった夏期手当を支給した影響で年間の平均工賃としては前年比で微減程度に留まっています。

◇1-5 給付収入、委託収入（実績ベース）

<訓練等給付費収入>

月	2022 年度	2021 年度	増加率
4 月	¥3,068,623	¥3,277,444	93.6%
5 月	¥2,904,438	¥2,828,908	102.7%
6 月	¥3,396,750	¥3,165,561	103.8%
7 月	¥2,940,945	¥2,926,818	99.2%
8 月	¥3,409,230	¥2,979,633	113.0%
9 月	¥2,970,244	¥2,817,979	104.1%
10 月	¥2,944,151	¥3,167,600	91.6%
11 月	¥2,690,719	¥2,699,615	98.3%
12 月	¥2,711,553	¥2,808,562	96.5%
1 月	¥2,797,219	¥2,689,872	104.0%
2 月	¥2,660,386	¥2,496,689	106.6%
3 月	¥3,213,965	¥2,981,082	107.8%
合計	¥35,708,223	¥34,839,763	101.6%

※ 前年比 +868,460 円

※ 年度内 1 名ずつの入退所、また新型コロナウイルス感染予防のための休みも多くあったため、収入としては微増にとどまっています。

<町田市こころみ事業補助金（原木購入）>

- ・町田市からの原木購入補助として 803,000 円を受領しました。
- ・施設の自己負担金を含めて 3,300 本の原木を購入しました。（前年度 2,600 本）
→埼玉県秩父市からの原木が 1000 本、山梨県都留市からの原木が 2300 本です。

→今年度については、東京都のウッドショック対策である林産物生産支援事業として、東京都椎茸生産組合連合会を通じて原木を購入することで、例年より安く原木を仕入れることが出来たため、購入本数が多くなっています。

<町田市補助金（日中活動系サービス推進事業補助金）>

- 日中活動系サービス推進事業補助金として合計 5,901,000 円（昨年度：5,182,000 円）を受領しました。
 - ▷基本補助として 3,995,000 円（昨年度：3,876,000 円）
 - ▷障害者等雇用加算として 1,306,000 円（昨年度同額）
 - ▷第三者評価受審経費として 600,000 円（昨年度なし）

◇1-6 修繕実績

- 軽自動車、送迎車、トラック
 - トラック車検（バッテリー、その他必要箇所の修理、交換）
- 2階トイレ壁紙張替え
 - 使用していなかった2階トイレ（和式）の汚れた壁紙を張替え、緊急用に使用できるように整えました。
- 敷地内樹木剪定（町田市実施のため施設の費用負担なし）
 - 強風で折れた木の枝下ろし、立ち枯れの大木の伐採を専門業者に依頼して行いました。
- 防災倉庫の設置
 - 古いスチール製倉庫を処分し、新たにサイズを大きくした倉庫を設置しました。防災用倉庫として活用しています。
- 外水栓の水漏れ修理（町田市実施のため施設の費用負担なし）
 - 外水道に繋がる水道管から水漏れがあったため、専門業者に依頼して修理しています。

◇1-7 助成金

- 特になし

◇1-8 固定資産になる物品等

- 特になし

2重点項目に関する報告

◇2-1 事業計画に設定した項目の進捗を報告

2-1-1 利用者の新たな作業目標の設定

- 檜木の基本の積み方である井桁積みについて、職員主体から少しずつ利用者主体としていくため、ミニチュアモデルを使った練習の時間を設けるようにしました。年度後期には実作業で井桁積みをする機会を多く作ったことで、沢山のご利用者の上達に繋がりました。
- ご利用者の椎茸収穫体験については、季節や天気、委託販売先の在庫状況により午後収穫できるタイミングが限られてしまうため、全員の収穫体験まではできませんでした。

2-1-2 レクリエーション活動の工夫

- レクリエーション活動を行うにあたり、事前に分かり易い大きな目的（楽しみ方）を明示、事前に十分に説明する時間を作ることにより、活動をより楽しんでもらうようにしました。「楽しく学ぶ」「椎茸研修」「取引先と交流」「話題のスポット体験」など。
- 日帰り旅行を中距離と長距離の2カ所を選択式できるようにしました。一泊旅行の再開に向けて、移動時や外出先での食事の様子、金銭管理など良く観察するようにしました。

2-1-3 原木しいたけ継続への取り組み

- ・令和2年から続く全国のナラ枯れ被害が七国山にも起きており、枯れ木の伐採の影響で楢木の保管場所に陽が当たるようになってしまったことから、東京都に許可を得て約100㎡に日除けシェードが張れる設備を作成、設置しました。
- ・町田市農業振興課が進める“里山環境保全計画”への協力の一步として、野津田の里山を見学させていただきました。1月には里山の間伐木材から101本を椎茸用の原木として購入できました。資源循環に寄与することはもちろん、運送費等が削減できるため通常購入の原木価格の半額以下で確保できています。
- ・しいたけ作業に関する年間作業実績表を作成し、2022年に行った作業実績を分かり易く共有できるようにしました。今後は前年実績と比較しながら作業予定を検討できるようになります。

2-1-4 職員の意識改善への取り組み

- ・原木しいたけ作業の方針、季節ごとの注意点などを共有するため、支援職員を中心とした会議を定期的（月2回）開催しています。
- ・ご利用者全員に対し、施設や職員それぞれへの意見等を聞き取る管理者面談を実施しています。聞き取った内容はプライバシーに配慮し、施設内の虐待防止委員会や職員会議で話題としています。“職員の対応が悪くなった”という意見はありませんでした。
- ・今年度受審した福祉サービス第三者評価の結果をもとに、指摘事項についての改善点を職員間で話し合いました。
- ・事務作業に関しては出来る限り分担できるように、共有できる部分を洗い出し担当を分ける、担当が休みの場合の対応方法などをまとめています。

3 その他の報告

◇3-1 就労（作業）

- 菌床キクラゲの入荷時期は前年同様に5月と7月に分散しています。メーカー担当者の意見を参考に、ラックの改善や切り込みの入れ方を大きく改善した結果、雑菌の繁殖が抑えられました。また、前年度より50床多く仕入れるようにしています。
- 昨年度末より委託販売を依頼している福祉レストランフレンズでの販売が好調です。休日でも販売できる場所として今後も活用していきます。
- 請負作業において、3～4人で作業できる小作業スペースを作り、集団の作業が苦手であったり、周囲の音が気になる方も集中して作業できるように配慮しました。
- 植菌原木の休養場所に陽が当たるようになってしまったため、東京都に許可を得て常設の日除けシェードを組立、設置しました。
- しいたけ作業に関する日々の記録様式を変更し、年間作業実績表として担当者ミーティングで共有、活用しやすい形式にしました。

◇3-2 余暇活動（行事）

- 企画の目的を明確にし、企画担当職員からご利用者に活動目的などを詳しく説明するようにしました。4月（楽しく学ぶ、上履き洗いグランプリ）5月（しいたけ研修）6月（手作りゲームと出張カワッペリ商店）7月（話題のスポット自販機食堂）、8月（レンタルカラオケ）9月（かがやきまつりを楽しもう）、10月（こころみ秋の大運動会）、11月（昭和時代から続く釣り堀体験）、12月（クリスマス会）、1月（新年会、新成人を祝う会）、2月（日帰り旅行）

○2月に3班に分かれて日帰り旅行（2か所）を行いました。

2/9、24 ロマンسカーミュージアムとピナウォーク散策（利用者11名）

2/16 生命の星地球博物館、漁港の駅TOTOKO（利用者7名）

○12月27日にかがやきの年末餅つきに参加しました。コロナ禍のため互いの利用者同士の交流は十分に行えませんでした。良い体験となりました。

○毎月の月末には、誕生日を迎えるご利用者の食べたいものを選んで皆で食べる誕生会（月末木曜日）を実施しました。

◇3-3 委員会の報告

（1）防災委員会

- ・9月30日（金）に火災想定での避難訓練に加え、広域避難場所である“七国山小学校”までの基本ルートでの行き方、ルート上の危険箇所などを確認しました。
- ・3月31日（金）に地震想定での避難訓練に加え、こころみ防災倉庫に格納されている防災用品を皆で確認し、即席担架等による要救助者の搬送訓練を行いました。
- ・毎日の火元の確認や、戸締りのチェックは防災自主点検シートに記録しています。
- ・新しい防災倉庫を購入・設置し、今年度分の防災用品を揃えました。

（2）送迎委員会

- ・現在8名が送迎を利用しています。内1名は藕絲館のご利用者で、帰りの送迎のみ利用しています。また、1名は藕絲館の送迎車とこころみの送迎車を併用（途中乗り換え）して利用しています。
- ・自主通所者1名が足のケガにより、12月のみ送迎の利用がありました。
- ・送迎の添乗業務は、シルバー人材センター2名に依頼しています。
- ・送迎車への乗車前も手の消毒を行い、車内でのマスクの着用を徹底しました。
- ・送迎ドライバー退職及び、新たな採用を行いました。

（3）給食委員会

- ・(株)フレッシュランチのお弁当を1食400円で提供しています。
- ・ご利用者の希望を取り入れて、毎週1回麺メニューの日を設けました。
- ・前年度に続き給食時は、利用者同士距離を保ち、かつ対面にならないよう1階と2階に分かれて食事をするようにしました。

（4）広報委員会

- ・法人広報誌「がっしゅうこく」及び後援会用広報誌について、4月末発行（10号）、8月末発行（11号）12月末発行（12号）の掲載記事の作成を行いました。ご利用者、保護者、その他関係者へ配布しています。

（5）保健衛生委員会

- ・毎月第一水曜日に血圧、体重測定を実施しています。
- ・9/29（木）鶴川記念病院に依頼し、かがやきと合同で利用者の集団健康診断を行いました。（受診者：14名）
- ・施設内でのマスクの着用を全員に徹底しました。猛暑日の際の屋外作業では、マスクを外すこと、なるべく人と距離をとるようにと指示しています。
- ・来館者（職員・利用者含む）には、玄関でのアルコール消毒、非接触体温計での検温を行いました。外部からの来館者は業務日誌に記録を残すようにしています。
- ・利用者帰宅後、館内の手の触れる場所を中心に毎日アルコール消毒をしています。また、昼食前後のテーブルの消毒も行いました。

- ・8月に“品川内科循環器クリニック”の協力で新型コロナウイルス感染症の4回目の集団ワクチン接種を行いました。12月に“中村クリニック”の協力で5回目を行っています。どちらも希望者全員にワクチン接種を完了しています。
- ・“中村クリニック”の協力でインフルエンザワクチン接種をかがやきと合同で行いました。11/10に利用者10名、11/28に職員5名が接種しています。2022年度はインフルエンザの罹患者はいませんでした。
- ・新型コロナウイルス感染症の年間の感染者は8名（内職員2名）、濃厚接触者5名（内職員1名）でした。濃厚接触者の後に陽性となった場合は感染者のみにカウントしています。入院や後遺症の残る方はおらず、標準の療養期間内で回復しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
感 染				2名	3名	1名
濃厚接触						1名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
感 染			2名			
濃厚接触		4名				

(6) 虐待防止委員会

- ・虐待防止委員会（正職3名）を2回開催しました。8月は今年度の虐待防止研修の受講予定、現在の利用者の雰囲気、職員の関わり方など、3月は福祉サービス第三者評価の結果の振り返りを行いました。

◇3-4 職員研修（研修実績）

日時	研修内容	主催	参加人数
4/5	法人初任者研修	まちだ育成会	2名
4/25	個別支援計画の作成について	まちだ育成会	2名
5/9	支援とは？支援に大切な事	まちだ育成会	2名
5/27	福祉制度を理解しよう	まちだ育成会	2名
6/23	虐待防止研修	まちだ育成会	4名
6/29	利用者が飲んでいるお薬を知ろう	東京都社会福祉協議会	1名
9/21	ワークショップ（法人内研修）	まちだ育成会	1名
12/1	刈払機取扱作業安全衛生教育	コマツ教習所株式会社	1名
12/26	虐待防止人権擁護研修	東京都社会福祉協議会	1名
1/19	高齢知的障がい者への支援の在り方 ～認知症を中心として～	東社協 知的発達障害部会	1名
1/20	「成年後見制度」身上監護・意思決定と支援者ができることを考える	東社協 知的発達障害部会	1名
3/7	苦情対応について	町田市社会福祉協議会	1名

※ 上記以外に、オンライン研修「スペシャルラーニング」の受講を職員に促しました。内容により職員全員で閲覧するようにしています。

◇3-5 会議の開催状況

○職員会議

毎月最終火曜日に開催し、情報共有と課題、今後の予定等について話し合っています。
また、第3火曜日に行われるかがやきの職員会議にも出席し、職員同士の交流と情報交換を行っています。

○こころみケース会議

8月～9月に個別支援計画のモニタリング（中間点検）を行う会議、2月～3月で年度総括を行う会議を行いました。目標に対するアプローチ、支援した結果などを話し合い、個々のケースの情報を共有し、次の課題を洗い出しています。

○かがやきケース会議

かがやきのケース会議に参加し、沢山の職員の意見を聞くことで、考え方のヒントや支援のアイデアなどを持ち帰るようにしました。6月と12月はこころみからのケースを議題とし、参考意見を基に支援に活かしました。

○生産担当者会議

専従職員を交えて椎茸作業の予定、進捗状況の確認を行う会議を隔週でおこなっています。作業の方針や疑問点の確認、長期での作業予定を担当者全員で共有するようにしています。また、年間を通しての作業実績表を作成するようにし、次年度からの進捗管理に活かせる形にしていきます。

○利用者会議（しいたけ山の会）

毎月1回、第2金曜日に利用者全員で意見交換等を行う会議を開いています。あじさいの会からの報告や議題検討、こころみへの意見や行事の要望や感想などを聞き取りしています。また、法人の利用者全体会議（あじさいの会）への参加と、あじさいの会からの企画である利用者永年勤続表彰として、勤続10年以上の利用者11名に記念品を贈呈しました。

◇3-6 リスクマネジメント（ヒヤリ、事故）

<報告件数>

ヒヤリハット	アクシデント	事故
6件	6件	2件

(1) ヒヤリハット

- ・台風の影響による暴風で敷地内通路上に大きな木の枝が倒れており、危険なため職員で伐採しました。
- ・かがやきから帰りの送迎に乗車する利用者の早退を連絡し忘れていました。
- ・外作業中の利用者の軽い転倒がありました。（怪我なし）
- ・朝水道が凍結していたためご利用者が外水道を開けたままにしており、約2時間水が出続けた状態となっていました。
- ・仕分け作業時に紙で指の皮（出血なし）を切ってしまいました。
- ・ご利用者が職員との話し合いの結果が気に入らず敷地の外へ出てしまいました。

(2) アクシデント

- ・利用者が階段を駆け降りた際、着地に失敗し足首を捻挫してしまいました。
- ・食堂で席を立てて移動しようとした際、隣のイスにつまずいて転倒、顎を打って軽い打撲、保冷剤で対処しました。

- ・職員から利用者へ楯木を受け渡す際に、謝ってご利用者の鼻に楯木が当たってしまい、軽い出血がありました。保冷剤で冷却し30分様子を見て作業へ戻りました。
- ・委託販売先で領収書を渡しましたが、売上金を貰わずに戻ってきてしまいました。
- ・職員が外作業中に蜂と思われる虫に刺されました。(翌日には腫れは引いていました)
- ・利用者が藪の中を通った際に枝で瞼に擦り傷を作っていました。

(2) 事故

- ・車両事故
 - ▷信号待ちで停車中に、後ろから来た車に追突される事故でした。怪我人はなく、相手の保険にて車両修理も完了しており、相手とのトラブルもなく解決しています。
- ・ご利用者の行方不明
 - ▷かがやきでの訪問歯科の日程を間違えて送り出してしまい、こころみへの帰り道の途中で行方がわからなくなってしまいました。夕方に警察へ捜索願の依頼、明け方に無事に発見されGHへ戻っています。怪我等ありませんでした。

◇3-7 苦情解決

(1) 苦情受付

- ・利用者の駅での行動について
 - ☞内容：朝の町田駅にて、降車後に混雑している駅構内で人を押しのけて改札に向かっていくため、今後他の乗客から苦情がくるかもしれないため、何か対策をお願いできないか？とJR町田駅の駅員から相談の電話があった。
 - ☞対策：本人に面談し事実を確認。保護者と相談の上、車両乗車位置を町田駅到着時に改札に一番近い位置になるようにし、走らずに改札まで歩くことをご本人に伝える。また、習慣となるまで保護者が朝付き添うこととした。
- ・送迎車の運転と礼儀について
 - ☞内容：送迎車運転中に、停車車両があったため車線を変えた際に対向車が来ており向い合わせとなってしまった。バックして対処したが、その際に挨拶もなかったとの事で、福祉車両としての運転マナーの教育をお願いしたいと電話があった。
 - ☞対策：運転には多々譲り合いの場面があるが、車内の利用者の様子、及び安全に運転できる範囲でできる限り分かり易い挨拶を心掛けるように職員に指導した。挨拶をすることに気をとられすぎない事も重要。

(2) 福祉サービス第三者評価

- ・前回受審の2019年から3年目となるため、福祉サービス第三者評価の受審を行いました。評価機関は前回と同じ“株式会社ミライシア”に委託し、8月に利用者聞き取り調査、11月に施設訪問調査(コロナ禍のためオンライン)を行いました。
- ・受診費用(全額)は町田市日中活動系サービス推進事業補助金として受領しています。

◇3-8 実習生、ボランティア(実績報告)

06/13~6/17	町田の丘学園 3年生	1名
06/20	町田の丘学園 2年生	2名
01/10~1/20	つるかかわ学園 支援センターソラール	1名
02/15	町田の丘学園 1年生	2名

〇3/7～3/9

町田の丘学園 2 年生 1 名

※ ボランティアの受け入れは今年度ありませんでした。

◇3-9 地域交流（祭り、講習会、など）

〇東京都の新型コロナウイルス感染者の急増の影響により、予定していた自治会との共催イベントである“こころみ夏祭り”は感染拡大防止の観点から中止としました。

〇自治会の防災訓練の会場として施設の貸し出しをしました。（主に外庭、トイレ等）

〇毎月 1 回の地元自治会を対象に資源回収を行いました。

〇近隣自治会の方からのしいたけの注文については、自宅まで配達をしました。

◇3-10 家族会、保護者会

〇偶数月の第 2 火曜日に保護者会を開催しました。6 月の保護者会を 7 月へ、12 月の保護者会を 1 月へ延期して開催しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況から 8 月の保護者会は中止としました。保護者同士の交流の機会であると共に、施設や法人からの各種報告、保護者の皆様からの意見や要望の聞き取りをしています。

〇4 月～5 月にかけて、個別支援計画の保護者面談を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大の状況から、こころみに来所することに不安のある保護者については、電話での説明、家庭の様子聞き取りを行いました。



2022 年度 かがやき事業報告

施設長 小木曾 文典

2022 年度は 1 名のご利用者が入所されました。

新型コロナウイルス感染症に罹患した人は、ご利用者 30 名職員 16 名となりました。その内、8 月に新型コロナウイルス感染症のクラスター（ご利用者 22 名・職員 10 名）が発生してしまいました。その為、施設を 3 日間閉所しております。閉所期間、罹患していない職員は出勤し、ご自宅で待機できないご利用者は通所していただきました。閉所開けは、ご利用者も職員も不安そうにしていたましたが、感染者も徐々に減ってくると、いつも通りの雰囲気作業に取り組むことが出来ました。

作業では町田市から委託を受けている花壇を、大賀藕絲館と連携をして花壇管理を行いました。いつもと違った雰囲気とする作業は、和気あいあいとしたものでした。

敷地内には多くの樹木があり、毎年業者に伐採を依頼し材木を処分していましたが、次年度より蒔きとして販売できるようにし、伐採に係る処分費の節約と、収入を少しでも増やす取り組みを始めました。

行事としてかがやき祭りでは、3 年振りに外部の方々に声をかけての開催となりました。祭り経験がある職員が、祭り経験のない職員に準備や手順等を伝えることで職員の育成にもつながりました。新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、約 600 名のお客様に会場いただき、楽しんでいただけた事が出来ました。また、ご利用者も皆の前で久々にダンスを披露するなどとても盛り上がり、売店で買い物をする場として、とても笑顔が多かったです。

ご利用者の転倒や骨折が目立った年となりました。ご利用者も徐々に年齢を重ねてきており、高齢化対策等課題となっています。

観光コンベンション協会や西園と共同で催し物を行う事が出来ました。観光コンベンション協会と GW には春フェアとして、ダリア園内でセグウェイ体験や、食べられる野草を芸能人の岡本信人さんと一般の方が一緒にダリア園内で採取し、西園でてんぷらにして食べる体験を行っています。また、大賀藕絲館のハスの実ケーキを使ってソフトクリームを提供し、多くの方にご好評をいただきました。また、11 月にはカラーサンドを使って多肉植物の寄せ植え講習会を開催しました。西園と 8 月には親子寄せ植え体験教室を 2 日間開催し、計 20 組の親子が寄せ植え体験をしました。ダリア園に初めて来た方も多く宣伝活動にもなりました。

1. 施設経営状況報告

◇1-1 利用者数、出勤率

4 月 1 名が入所

7 月 1 名退所（他法人施設に異動）

在籍者数 75 名（生活介護事業 27 名 ・ 就労継続支援 B 型 48 名）

出勤率 88.1%（生活介護事業 84.5% ・ 就労継続支援 B 型 91.6%）

※2021 年度出勤率 89.5%（生活介護事業 88.4% ・ 就労継続支援 B 型事業 90.6%）

◇1-2 職員数、有休取得率

職員数 52 名（支援職 常勤換算 あい 14.9 きぼう 10.1）

離職率 6%

有休消化率 61.2%

◇1-3 就労会計

就労事業	2022年度	2021年度
草花販売収入	7,199,208	7,597,148
花壇管理収入	3,556,860	3,546,860
売店事業収入	2,825,953	2,804,230
請負事業収入	398,270	492,470
ダリア園券売事業収入	8,360,988	9,593,475
その他の収入	1,685,878	1,742,268
合計	24,027,157	25,776,451

(昨年対比▲1,749,294円)

◇1-4 工賃(数値目標)

14,748,250円 (2021年度 14,658,500円)

工賃 昨年度と同様に支給しました。

本年度実績 12,180,750円 増・減 407,250円

2021年度実績 11,773,500円

賞与 夏期賞与を支給しました。

本年度実績 35,000円 総額 2,567,500円

2021年度実績 40,000円 総額 2,885,000円

※きぼうの平均工賃 16,767円 (昨年度 16,547円)

◇1-5 給付収入、委託収入

月	日数	生活介護	就労継続支援B型	合計
4月	21日	7,312,271	7,108,750	14,421,021
5月	19日	7,354,300	6,450,518	13,804,818
6月	23日	8,447,362	8,075,600	16,522,962
7月	20日	6,739,220	6,759,758	13,498,978
8月	22日	6,578,679	6,751,405	13,330,084
9月	21日	7,611,831	7,560,464	15,172,295
10月	20日	6,698,704	7,132,522	13,831,226
11月	21日	7,323,703	7,420,671	14,744,374
12月	20日	7,134,933	6,918,919	14,053,852
1月	20日	6,872,006	6,791,292	13,663,298
2月	20日	7,099,519	6,901,398	14,000,917
3月	22日	7,642,266	7,766,866	15,409,132
合計	249日	86,814,794	85,638,163	172,452,957
2021年	244日	87,224,287	82,563,986	169,788,273

(昨年対比+2,664,684円)

◇1-6 修繕実績(実績ベース)

ダリア園給水バブル修繕 69,001円

2階男子トイレ修繕 69,300円×2か所

スチームコンベクション修理 82,236円

遮光ネット、ビニールハウス張替 406,995円

◇1-7助成金

- 三井住友信託銀行株式会社
会議机2台及び椅子4脚（286,000円の内280,000円助成）
- 昭和会館
パーソナルロッカー2台（415,360円の内330,000円助成）

◇1-8固定資産になる物品等

該当なし

2. 重点項目に関する報告

◇2-1 社会課題を利用者の活動、作業にします。（地域貢献活動）

①買い物支援（移動販売の実施）

取り組むことが出来ませんでした。2023年度は近隣での生活課題を調査し、ご利用者が継続可能な作業として行えるようにしていきます。

②かがやき、ダリア園の敷地を広場化（パブリック性の強化）

観光コンベンション協会が主催した春フェアに協力し、ダリア園内でのセグウェイ体験や野草の調理に使う野草の収穫、人力車の起点など。多くの方が集う場所になりました。また、西園と協力し、寄せ植え親子体験教室を2日間開催し、合計20組の親子が寄せ植えを作り子供たちの笑顔が印象的でした。

かがやき祭りでは、主に近隣に住んでいる小学生のグループや親子連れ等約600名の方に来ていただき、かがやき及びダリア園を多くの人に知っていただく事が出来ました。

ダリア園閉園中、休憩所木花が閑散としてしまう為、コミュニティールームの様な活用がないか話を聞いた所、近隣の方から手芸教室をしたいという声がありました。次年度より場所を提供する予定です。

◇2-2 個別支援計画書、点検書の作成の質の向上

誕生日月更新を継続的に行い、保護者面談をお願いできる方には出来るだけ対面での面談を行いました。対面で面談が難しい方には、電話での面談や書類の送付を行いました。

にじとのグループホーム情報交換会では、ZOOMを活用し、担当者同士で意見交換をし、ご利用者が過ごしやすい環境を整えることが出来ました。また、計画相談では対面で面談が行えない場合は、ZOOMを活用し面談をしていただきました。

◇2-3 各部門の強化と連携

(1) 室内部門（生活介護事業）

内職、自主製品作りを中心に、作業提供をしています。特に、ふきん作りではご利用者の技術もとても上手になり、たくさんの布巾を縫う事が出来ました。また、ご利用者の状態に合わせ、運動、買物等作業以外も提供し、ご利用者が力を発揮できるように努めました。

(2) 生活部門（生活介護事業）

生活活動では体験を生かして、ご利用者のご家庭での過ごし方や休日余暇をより充実したものにしてください、また作業以外の経験の幅を広げていくことにより、生活における選択肢

の幅を広げていただきたいという理念のもと活動しております。

参加人数も多いことから、少人数制で2か月間にわたり活動を提供しています。

4・5月	上履き洗い&季節に合った洋服選び	47名
6・7月	パタカラ体操&紅茶をいれてティータイム	52名
8・9月	ドリームキャッチャーづくり（かがやき祭りに向けて）	52名
11・12月	ダリア園スタンプラリー	53名
1・2・3月	足湯・手湯でぼかぼかストレッチ	57名

ドリームキャッチャーは、かがやき祭りにて飾りました。見てくださったお客様から素晴らしいね。等の言葉かけをいただきました。また、足湯・手湯でぼかぼかストレッチでは、普段生活活動に参加されないご利用者も参加があり、とても気持ちよさそうにしているのが印象的でした。

(3) 栽培部門（就労継続支援B型）

新型コロナウイルス感染症対策、熱中症対策をしながらの外作業となりました。葉ボタン畑への牛ふん蒔きは、ダリア園協力者ととも協力し行うことができました。

体力的に長時間立ちながらの作業が難しくなっているご利用者が見え始めました。ご本人たちは外作業がしたいと、希望を持たれているため、作業棟ハウス内でも座って作業ができるように整えました。

(4) 資源活用部門（就労継続支援B型）

花壇管理委託を町田市から引き続き委託の依頼とシーアイハイツの花壇、3ヶ所の花壇業務を請負ました。今年度はブルーベリーの育ち方も良く、約100名のお客様に摘み取りを行っていただく事が出来ました。

忙しい時や、職員配置が少ない時など部門内で解決しようと頑張ってしまう事がありました。頑張ることで職員が疲れてしまう事があったので、次年度以降他部門との連携を取りながらお互いに協力できる体制を作っていきます。

雨天時、ポット洗いの仕事がメインになっています。ポット洗いだけではなく雨天時の作業の提供を考えていきます。

(5) 販売部門（木花・花菜）（就労継続支援B型）

① ダリア園休憩所「木花」

売上 2,825,953 円（昨年 2,804,230 円 +21,723 円）

②ダリア園のお花屋さん「花菜」

売上 7,199,208 円（昨年同月 7,597,148 円 397,940 円減）

(6) ダリア園

部門（就労継続支援B型）

今年度は3年ぶりに来賓を招待しての開園式を行うことができました。

開園式当日からの猛暑によりダリアの成長が止まり花数が減った為、8月1日～9月6日まで、再入園措置とさせて頂きました。

2022年度入園者数 6/25～11/6

総数 19,492名 (21,850名)

※()内は昨年度数

6月	729名 (667名)	7月	2,180名 (3,609名)	8月	606名 (1,135名)
9月	3,071名 (3,342名)	10月	11,820 (12,227名)	11月	1,086名 (848名)

ダリア園売上 8,360,988円 (昨年度 9,593,475円 1,232,487円減)

2022年	合計	一般	障がい者割引	団体	J A F その他	子ども	前売り券	市互助会	招待券入園	再入園	読売新聞招待券	育成会後援会	敬老入園	パスポート購入	パスポート再入園
6月	729	585	26	0	74	6	0	0	0	0	0	0	0	33	5
7月	2,180	1158	117	52	622	56	0	0	22	0	0	8	0	53	92
8月	606	302	47	0	138	46	0	2	3	1	0	0	0	3	64
9月	3,071	1797	203	0	655	93	0	2	46	42	0	0	114	7	112
10月	11,820	6919	621	179	2977	388	0	20	320	177	0	9	0	4	206
11月	1086	543	78	0	211	98	0	0	84	17	0	2	0	0	53
計	19,492	11,304	1,092	231	4,677	687	0	24	475	237	0	19	114	100	532

◇2-4 かがやき組織のチーム力向上

新型コロナウイルス感染症クラスターもあり、他部門への実習は出来ていません。

課題がある時にはその都度、部門リーダーが集まり課題解決に向け検討を行いました。必要に応じて部門での話し合いも行っております。話し合いを持つことで職員間の意思疎通や協力し合う姿勢がありました。お昼は職員が他部門での食事介助や見守りを行う事でご利用者の状況や、どのような支援をしているのかなども情報共有することが出来ました。

◇2-5 四季彩の杜計画を見据えたダリア園のサービス向上

町田市の計画にある四季彩の杜計画を見据えて、薬師池公園、町田リス園、産業観光課など他業種との連携を行い、共働で集客力向上を図るために、町田薬師池公園四季彩の杜 施設運営連絡協議会に出席をしています。

今年度は、連携し春フェア、観蓮会、寄せ植え体験教室を行うことが出来ました。

★ 町田産ダリア “名前を付けよう”

ダンシング ピンキー

由来：ピンクの花びらの先が割れていてヒラヒラとダンスをしているように見えた。

また、ピンキーには小指という意味もあり小さな小指が踊っているようだという意味も込めた。

★ ダリア園ガイドツアー

7月に2回実施。両日とも雨でしたが8名の参加がありました。

★ 年間パスポート

100名 (昨年度133名)

★ 切り花販売

11月8日 133,220円 (昨年度130,325円)

◇2-6 こころみと連携を図れる施設運営の検討

ケース会議、職員会議などで情報交換を行いました。また新型コロナウイルスワクチン接種やご利用者集団健診の実施など、共同で健康支援を行いました。

3 その他報告の報告

◇3-1 就労

重点目標参照

◇3-2 余暇活動

重点目標の2-3(2)生活活動部門を参照

6月には、日帰り旅行を実施しました。65名の参加者があり3班に分け行っております。昨年に引き続きバーベキューに行き、ご利用者も笑顔で帰ってきました。

年末にはもちつき、新年会は各部門に分かれ初詣に行き、昼食はリクエストのあったメニューをテイクアウトし、食事をしました。とても満足そうに召し上がっていました。

◇3-3 委員会の報告

●衛生委員会

4月	衛生委員会とは	5月	腰痛対策
6月	熱中症・食中毒について	7月	快適な睡眠術(不眠・SAS・労働生産性)
8月	歯と口の健康を守る	9月	生活習慣病に取り組もう
10月	交通事故予防	11月	職員インフルエンザ予防接種
12月	ワークライフバランス	1月	花粉症について
2月	ハラスメント対策について	3月	1年を振り返って

- 職員会議にて、衛生委員会の内容を周知し、施設環境改善の意見募り、改善や修繕等に反映させました。

●送迎委員会

- 2ヶ月に1回開催し、送迎ドライバー、添乗員との情報共有を行いました。新型コロナウイルス感染症対策を行い運行に努めています。
- ご利用者の乗降時の安全を守るため、改善点があればその都度委員と運転手と意見交換をし、シルバー添乗員へ安全な方法をお伝えしました。

●給食委員会

- 毎月、委託業者(日清医療食品)の栄養士と情報交換等を行いました。その他にも季節、行事に合わせたメニューを提供しました。
- ご利用者からのリクエストメニューやセレクトメニューなど楽しめる給食を提供することが出来ました。
- ご利用者の状況に合わせ、個別対応食を提供しました。

●保健衛生委員会

- 7月~10月新型コロナウイルス感染症に罹患した人は、ご利用者29名職員16名となりました。8月にはクラスターが起き、3日間閉所しています。
- 体重測定を2ヶ月に1回行いました。
- 昨年に引き続き訪問歯科での歯科治療を行っています。26名のご利用者が登録をしています。

- ・ 4回目の新型コロナウイルス感染症ワクチン接種を9月16日（金）に行いました。4回目を摂取したご利用者は42名となりました。
- ・ 5回目の新型コロナウイルス感染症ワクチン接種（オミクロン株対応ワクチン）を12月22日（木）及び12月28日（水）2回に分け、東京都の行っているワクチンバスを派遣し接種しました。かがやきで5回目を摂取したご利用者は45名でした。
- ・ インフルエンザワクチン接種を嘱託医の中村医院にお願いし、11月10日（木）に行いました。48名のご利用者が接種をしています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種は、こころみ及びリス園。インフルエンザワクチン接種はこころみがかがやきに来て接種をしています。

●防災委員会

- ・ 防災食の消費期限の確認をしました。消費期限間近のものは、新たに購入をし、不足が無いようにしています。
- ・ 年2回、11月及び3月に防災訓練を行いました。ご利用者職員のみならず、ダリア園内で作業をしているスタッフも訓練に参加することが出来ました。

●美化、衛生委員会

- ・ 整理整頓を行いました。危険が無いよう、ヒヤリハットが報告された場合は、すぐに環境整備を行うようにしました。
- ・ 消耗品の発注などを行い、消耗品の保管場所を定期的に整理整頓し、わかりやすい保管を心掛けました。

●研修委員会

- ・ 強度行動障害支援者養成研修を受講することが出来ました。
- ・ 東京都福祉保健財団が主催する研修は、受講資格のある職員が受講することが出来ました。その他の研修は、職員が希望する研修に参加をしました。
- ・ 研修終了後、研修報告をまとめると共に内容を職員会議等で報告をしています。

日時	研修内容	主催者
随時	Speciallearning	
6/23	虐待防止研修	法人内研修
7月	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	東京都福祉保健財団
7/27	第45回てんかん基礎講座	公益社団法人日本てんかん協会
8/2	第45回てんかん基礎講座	公益社団法人日本てんかん協会
8月	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	東京都福祉保健財団
8月	障害者虐待防止・権利擁護研修	東京都福祉保健財団
9/8	東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	東京都福祉保健財団
11/25	発達障害者支援を理解する	町田市社会福祉協議会
1月	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	東京都福祉保健財団
2/22	当事者へは居場所を 家族には支えを	ひかり療育園 福祉講座
2/22	新商品の説明・園芸情報	住友化学園芸株式会社

◇3-5 リスクマネジメント

事故	ヒヤリハット	合計
15件	23件	48件

内訳

月	事故				ヒヤリ	合計
	他害	無断外出	転倒	その他		
4						0
5			1			1
6			2		4	6
7			1		3	4
8			1			1
9	1			2	7	10
10				1	2	3
11					3	3
12				2		2
1				1	1	2
2			1		3	4
3	1			1		2
計	2		6	7	23	38

事故（東京都報告事項）

・ 薬の落薬（2件）

- 2階休憩室の前に薬が1錠落ちていたのが見つかる。薬の番号などから、区服薬しているであろうご利用者に確認すると、昼食後、落としてしまっただが、見つからなかった。との報告がある。
- お昼休み、利用者Tさんがマットの上に錠剤（エビリファイ）が落ちていたのを見つけ、職員に渡してくれた。その薬を服薬しているご利用者は2名いるが、どちらが落としたのかわからない。本日なのか昨日以前の薬なのかも不明。2名の保護者等に連絡を入れる。

・ 骨折（3件）

- 帰宅の為送迎車を待機している時、走ったり飛び跳ねたりしていた。通常の行動であったので見守っていたが、着地に失敗したのか急に泣き出す。歩き方に不自然な様子が見られなかったため、そのまま帰宅される。その後、ご自宅に戻られ、ご家族から右足が腫れていると、連絡がある。泣いたときの状況を説明。翌日、通院し右足第5中足骨折と診断。ギプスで固定。全治5週間
- ご利用者健康診断の最中、職員Sが血液検査の苦手なご利用者の横にいたところ、ご利用者がSの左目辺りを殴ってしまった。採血をしようとしたとき別の職員が抑えていたが、なかなか採血が出来ず1度諦めた。その時には職員を威嚇するような行動が随所に見られた。その為他の検査から行い気分転換をしてからの、再挑戦だった。他害の可能性を考慮し1度目の職員とは別の職員が腕を押さえ、普段対応している私が横に座り背中をなでながら見守っていたところ、左目辺りをたたかれてしまった。北里大学病院へ通院し、形成外科は異常なく、眼科を受診し、網膜振盪症と診断をされる。
- 花壇管理委託作業のため、芹が谷公園で作業を行っていた。移動のため、職員が付き添い横断歩道を渡ろうとした所、突然ふらつき前のめりに転倒する。右手親指に擦り傷を確認。痛みの訴えはなかった。施設に戻った後、痛みを訴えたので、様子を見ることとした。翌日に受診をすると、右手親指第一関節の骨折が判明する。

ヒヤリハット

- 昼食後飲み終わった薬のケースを連絡袋に入れ忘れてしまった。
- 苗かごを持って運ぼうとした時に足が引っ掛かり転倒してしまう。
- 券売当番の交代を忘れてしまった。
- ご利用者が上履きに履き替える際、バランスを崩し転倒してしまった。

ヒヤリハットや事故があった時には、夕方のミーティングにて報告し、対策を検討しました。ヒヤリハットの報告を忘れることが無いよう、かがやき内で書式を検討、作成しすぐに記入できるようにしました。

◇3-6 実習生、ボランティア

月	実習生受け入れ先
5	町田の丘学園高等部3年生 A部門(1名)
6	町田の丘学園高等部3年生 B部門(1名) 町田の丘学園高等部2年生 B部門(2名)
7	日本福祉大学(1名)
8	
9	町田の丘学園高等部3年生 B部門(1名) 日本福祉大学(1名)
11	町田の丘学園高等部2年生 B部門(1名) 町田の丘学園高等部2年生 A部門(1名) ヒューマンアカデミー(2名) 野津田高等学校(2名)
12	アルファ医療福祉専門学校(1名)
2	ヒューマンアカデミー(2名)
3	ヒューマンアカデミー(2名)

- 毎週木曜日、1名ボランティア

◇3-7 地域貢献、地域交流(祭り、講習会、など)

かがやき祭りを3年ぶりに地域の方々に来ていただきました。約600名のお客様に会場していただき事が出来ました。子供たちだけで来るグループも多々見られ、地域交流の良い場となりました。

西園と共同し8月には、親子寄せ植え講習会を行い20組の親子が体験をし、子供の個性あふれる寄せ植えを見ながら親御さんも楽しそうにしていました。

観光コンベンション協会と共同し11月には、カラーサンドを使い多肉植物の寄せ植え講習会を開催し3人の方が行いました。

2-5参照

◇3-8 家族会

8月以外、毎月家族会に参加しました。法人からの情報や施設での情報をお伝えしました。8月は家族会自体がありませんでした。



2022年度にし(共同生活援助) 事業報告

施設長 井上 武明

はじめに

2022年度は2021年度に引き続きどの施設も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年だったと思います。オレンジ館もクラスターが発生し、ホーム内に隔離状態で過ごさなくてはならず、中には入院して大変な思いをした方もいました。全員症状が悪化することなく何とか無事に乗り切る事が出来ました。長い間、外出を我慢しての生活でしたが終息したら外出を出来る様に移動支援の手続き等、出来る事を準備してきました。2022年度下半期には外出など余暇活動が出来るようになり充実した週末を送れるようになってきました。しかし、残念なこともありました。2021年の暮れから闘病されていたレッド館のご利用者が8月末に病状が悪化しレッド館を退去され看護付きの施設に移られましたが、その1ヶ月後に残念ながらお亡くなりになりました。ご冥福を祈りたいと思います。

1 施設運営状況報告

◇ 1-1 利用者数

レッド館 定員7名(現員7名:男性7名 女性0名)

オレンジ館 定員9名(現員9名:男性6名 女性3名) 2023.3.31 現在

※レッド館 2022.年8月女性1名退去、同11月男性1名オレンジ館より転居、
2023年1月オレンジ館へ男性1名入居

◇ 1-2 職員数、離職率、有休取得率

職員数 12名

施設長 1名

サービス管理責任者 1名

世話人 5名(常勤換算 4.2)

生活支援員 6名(常勤換算 3.2)

離職率 20.0%

職員採用 5月 1名

10月 1名

◇ 1-3 給付費収入

	2022 年度			2021 年度		
	国保連	都加算	月合計	国保連	都加算	月合計
4 月	3,295,380	947,838	4,243,218	3,122,262	844,246	3,966,508
5 月	3,329,886	1,003,678	4,333,564	3,196,845	888,794	4,085,639
6 月	3,249,391	959,879	4,209,270	3,511,637	858,082	4,369,719
7 月	3,328,566	1,035,789	4,364,355	3,630,291	885,966	4,516,257
8 月	3,450,932	994,454	4,445,386	3,610,901	896,993	4,507,894
9 月	3,073,259	873,634	3,946,893	3,558,008	856,414	4,414,422
10 月	3,262,901	888,741	4,151,642	3,682,960	882,730	4,565,690
11 月	3,212,797	855,460	4,068,257	3,586,590	843,663	4,430,253
12 月	3,413,818	911,088	4,324,906	3,673,394	886,770	4,560,164
1 月	3,384,043	919,488	4,303,531	3,649,828	897,170	4,546,998
2 月	3,133,830	840,304	3,974,134	2,924,729	802,975	3,727,704
3 月	3,444,120	928,742	4,372,862	3,213,878	912,872	4,126,750
合計	39,578,923	11,159,095	50,738,018	41,361,323	10,456,675	51,817,998

※別途 2022 年度は国保連より福祉介護職員処遇改善臨時特例交付金支給あり (597,929 円)

◇ 1-4 修繕実績 なし

◇ 1-5 助成金：該当なし

◇ 1-6 固定資産になる物品等：該当なし

2 重点項目に関する報告

◇2-1 ご利用者の人権を尊重した支援

ご利用者の声に耳を傾け、ご利用者の人権を守り、一人一人の生き方に合った生きがいのある支援を心がけました。虐待防止研修には積極的に取り組み「令和4年度東京都障がい者虐待防止・権利擁護研修」に2名参加、内部研修の「虐待防止・身体拘束に係る研修」に2名参加、研修に直接参加できなかった職員も研修録画を観ての全員受講をしています。又、オンライン研修のスペシャルラーニング研修も受講しました。「人権の擁護、侵害と虐待防止と身体拘束のチェックリスト」の実施、虐待防止・身体拘束に関する研修を常に行い虐待の無い、笑顔があふれる暮らしの場を作る様に職員一同で話し合っています。しかし、残念なことに2022年11月に体罰は無かったものの強い言動や待つ支援を忘れ、不適切な支援と捉えられる事象を起こしてしまいました。ご利用者ご本人、職員本人、施設職員への聞き取りを行った結果、ご利用者に対して有益にならない支援、不適切な支援として法人より処分を受けております。

◇2-2 生活面における自立支援

ご利用者の夢や希望が叶えられるようご本人やご家族と連携し話し合いを行いました。特に通院に関しては改善が見られない場合など情報を集め転院をするなど対応しました。

日中活動施設との連携を深め、充実した支援が出来るよう情報の共有を図りました。昨年度に引き続き支援会議「GH 情報交換会」を毎月行いました。にじの「個別支援計画」の作成日を昨年度より誕生日月に順次移行し「GH 情報交換会」にて個別支援計画や中間見直しの共有を通所施設と行いました。

ご家族の面談は主に電話やメールにてご要望等のお話を伺っています。日中施設と合同で行う時は対面でお話しを伺っています。

ご利用者からの意見・要望を個別に聞き取り、予定の作成などを充実させました。ご利用者全体で話し合いは持っていません。

◇2-3 2つのユニットの連携により支援の充実を図ります

2つのユニットの連携により支援の充実を図りました。主要な職員は、両ユニットでの勤務を行い、情報の共有や交流を図ることが出来ました。特に申し送りノートや SNS を利用してご利用者の注意事項や事故やケガの速やかな情報伝達や、青年学級の変更やクレヨン対応の注意、トイレ詰まりの対処法まで昼夜休日を問わず、速やかな情報伝達や指示、アドバイスがされました。特に上半期は新型コロナウィルス感染症のクラスターが起きた時も職員全員が情報共有して乗り切りました。

両ユニットが平等かつ同水準のサービスを提供するために職員会議を毎月全員で開催しました。誕生会や土用の丑の日などのイベントはユニットごとですが同じよう開催しました。

◇2-4 資源を無駄なく活用し、経費の節減、リユース、リサイクルにつなげます。

資源を無駄なく活用し、経費の節減、リユース、リサイクルを積極的に行いました。特に食品ロスをなくし節水、節電を行い経費の節約に努めました。また、日本キリスト教団南町田教会様より野菜の寄贈、㈱カーブスジャパン様よりフードドライブ活動の一環として食品を寄贈して頂きました。

分別を徹底しリユース、リサイクルに努めました。

また、昨今の物価高騰、熱光熱費も大きく影響を受けました。節約も一段と注意はしましたが追いつかずご利用者の負担も増大してしまいました。

◇2-5 「緊急一時保護事業」の実施：「緊急一時支援事業運営規程（育成会版）」

保護者の要望も高かった暮らしの不安を解消する一つの事業として、緊急時に一時的な受け入れ先として、オレンジ館内に1床設置しています。公的なサービスの利用がかなわないときや、特殊な事情がある場合など、ご家族の緊急時にお預かりするものです。日中活動施設の「日中一時支援事業運営規程（育成会版）」と暮らしの場の「緊急一時支援事業運営規程（育成会版）」により、両方の事業が協力することで、安心と安全、不安の解消に繋がっています。2022年度のご利用はありませんでした。

3 その他の報告

◇ 3-1 利用者支援

余暇活動（行事）

	レッド館	オレンジ館
4月	誕生日会(18日)	
5月	誕生日会(13日・21日)	誕生日会(19日)
7月	誕生日会(28日) 土用の丑日(24日)	参議院選挙(10日) 土用の丑日(24日)
8月		誕生日会(24日・27日・30日)
9月	震災時避難訓練(25日)	誕生日会(18日) 防災訓練(25日)
10月		誕生日会(2日)
12月	クリスマス会	クリスマス会 誕生日会(25日)
1月	初詣 誕生日会(4日)	初詣
2月	豆まき 誕生日会	豆まき 誕生日会
3月	ひな祭り	ひな祭り

○青年学級、若葉とそよ風のハーモニーへの参加

- ・ひかり学級：4名参加
- ・公民館学級：1参加名
- ・わかそよ：5名参加

○余暇活動（移動支援の利用）

全員が週末や祝日に移動支援を利用して、散歩、買い物、食事、散髪、図書館、カラオケ、動物園、美術館、コンサート、テーマパーク、観光地、温泉、バス乗車の練習等にガイドヘルパーさんと外出しています。

○参議院議員選挙への投票

7月の参議院議員選挙に希望者4名が投票を行いました。

食事の提供

- ・ヨシケイから食材を調達して施設内で職員が調理し、安定した食事を提供しました。
- ・休日の昼食はヨシケイで注文せずに、ご利用者と話し合いながら、お好みの昼食を提供しました。また、時にはスーパーやコンビニ等で各自選食べたいお弁当を購入し食事をしました。
- ・(株)カーブスジャパン様のフードドライブや南町田教会様の野菜の寄贈などの食材の寄付を頂き日々の食事に役立てることが出来ました。

健康管理

- ・バイタルチェック（血圧・体重）：毎週1回実施しました。
- ・検温：毎日に実施しました。
- ・服薬支援（管理）：服薬ミスが無いよう慎重に管理しました。服薬カレンダーで2日分をセ

ットし、毎回の処方管理をしています。落葉をしてしまう方には目視による服薬の確認も行いました。塗布薬や点鼻薬、点眼薬の介助を行いました。

- ・ 通院支援：職員による通院同行を行いました。また移動支援による通院同行も行いました。
- ・ 新型コロナウィルス感染症をはじめ感染症等に罹患したご利用者はいらっしゃいませんでした。

保健衛生

- ・ 感染症対策として館内の消毒や帰宅時等、手指の消毒等の徹底を図りました。
- ・ 定期的にシーツ洗濯をし、布団干しや乾燥機による布団乾燥を行いました。
- ・ 月に1回、体重・血圧測定を行いました。
- ・ 入浴は体調不良などを除き、毎日入浴し、毎日各自、洗濯されました。乾燥機も天候やアレルギーに応じて使用しています。
- ・ 居室の清掃は各自が行いますが、行き届かないところは支援しました。
- ・ 季節の変わり目にはエアコン清掃を行いました。
- ・ ご希望により各居室のエアコン清掃を専門業者に依頼しました。

金銭管理

- ・ ご家族からお預かりしている金銭は各自のお財布とは別に保管管理し、日々のお小遣いなどの支出は記録（個人の出納帳の記入及び領収書）して、ご家族に報告しました。

その他

- ・ 苦情解決の取り組み
- ・ 特に、保護者やご家族からの苦情はありませんでした。また、近隣との関係も良好でした。
- ・ 「人権の擁護、侵害と虐待防止チェックリスト」の活用
- ・ 人権に関する職員の啓発の取り組みとして、「人権の擁護、侵害と虐待防止チェックリスト」を用いて、人権や虐待の振り返り、未然の防止に活用しました。

3-2 職員研修

	研修名	参加人数
4月	階層別研修 初任者研修	1名参加
6月	内部研修・虐待防止・身体拘束研修 綿 祐二先生	2名受講
8～10月	障害者虐待防止・権利擁護研修(オンライン)	2名受講
3月	虐待防止・身体拘束研修(録画) 綿 祐二先生	6名参加
3月	人権の擁護、侵害と虐待防止と身体拘束のチェックリスト	10名実施

3-3 職員会議

○職員会議

毎月第一木曜日に開催しました。ご利用者個々の健康状況や通院情報、余暇の過ごし方や季節ごとの衣料や寝具などの注意点など両ユニット全員の情報を共有し、支援に活かしました。

○グループホーム情報交換会

ご利用者の通う施設の職員ととびらの職員、にじの職員、本部職員による、個別支援計画の情報交換、ご利用者の支援の課題や改善点などについて話し合うと共に支援に反映しました。

3-4 リスクマネジメント

レッド館

	ヒヤリハット	アクシデント	事故
件数	0件	1件	0件

オレンジ館

	ヒヤリハット	アクシデント	事故
件数	0件	2件	1件

3-5 家族会

家族会は開催しませんでした。ご利用者の様子や活動・取り組みについて個別に報告、相談をしました。

3-6 地域交流

町内会の行事等は開催されませんでした。



2022 年度短期入所（ショートステイ） クレヨンレッド館・クレヨンオレンジ館 事業報告

施設長 井上 武明

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響によりオレンジ館は7月に3週間以上の利用停止期間と自粛によるキャンセルにより上半期は前年同月比 12%の減少となりました。レッド館はコロナウィルス感染症の影響が少なかった為、前年より 14%の増加がありました。コロナウィルス感染症の影響が少なくなってきた下半期はグループホームに入居に向けての体験申し込みや家族レスパイトの需要も増えており、グループホームの需要ニーズの高まりと家族レスパイトにおけるショートステイの必要性を感じています。

1 施設経営状況報告

◇1-1 利用者数・利用率

クレヨンレッド館（定員 1 名） 対前年比 104%

クレヨンオレンジ館（定員 1 名） 対前年比 109% 両施設合計 対前年比 106%

	2022 年度レッド館		2021 年度レッド館		2022 年度オレンジ館		2021 年度オレンジ館	
	利用泊数	利用率	利用泊数	利用率	利用泊数	利用率	利用泊数	利用率
4月	19泊	63%	30泊	100%	16泊	53%	12泊	39%
5月	21泊	68%	31泊	100%	16泊	52%	21泊	68%
6月	22泊	73%	13泊	43%	21泊	70%	19泊	63%
7月	21泊	68%	14泊	45%	4泊	13%	18泊	58%
8月	18泊	58%	13泊	42%	10泊	32%	13泊	42%
9月	14泊	47%	13泊	43%	16泊	53%	12泊	40%
10月	26泊	84%	16泊	52%	18泊	58%	12泊	40%
11月	23泊	77%	22泊	73%	15泊	50%	14泊	47%
12月	16泊	51%	19泊	61%	15泊	48%	15泊	48%
1月	16泊	51%	19泊	61%	21泊	68%	16泊	52%
2月	21泊	75%	16泊	57%	22泊	79%	14泊	50%
3月	15泊	48%	17泊	55%	24泊	77%	15泊	48%
合計	232泊	61%	223泊	61%	198泊	54%	181泊	50%

※2022 年度レッド館・オレンジ館合計利用率 59%

◇1-2 職員数、離職率、有休取得率

(1) 職員数 12 名（にじ兼務）

施設長 1 名

サービス管理責任者 1 名

生活支援員 レッド館 常勤換算 5.6

オレンジ館 常勤換算 5.6

◇1-3 給付費収入

	2022 年度レッド館		2021 年度レッド館		2022 年度オレンジ館		2021 年度オレンジ館	
	国保連	都加算	国保連	都加算	国保連	都加算	国保連	都加算
4月	199,588	75,208	125,513	73,929	138,552	56,816	114,222	61,347
5月	206,239	78,155	141,373	72,549	152,032	60,708	192,606	73,006
6月	202,930	90,303	119,855	50,225	202,776	80,551	115,800	63,739
7月	215,436	80,929	108,270	54,595	55,938	19,605	143,967	61,334
8月	165,009	74,148	130,114	49,762	86,417	33,803	106,649	48,475
9月	136,108	49,608	132,810	53,228	143,144	62,264	111,568	49,971
10月	246,328	101,281	154,718	67,269	184,091	68,789	120,688	44,223
11月	248,502	86,091	215,797	84,980	134,134	59,483	148,701	49,250
12月	181,298	62,997	184,527	81,652	131,578	65,715	128,632	64,561
1月	132,524	54,377	165,403	79,655	213,266	82,145	135,834	59,048
2月	215,402	79,969	158,620	64,015	189,801	85,387	147,496	52,024
3月	145,500	55,994	164,023	68,668	191,017	88,652	131,736	61,641
合計	2,294,864	889,060	1,801,023	800,527	1,822,746	763,918	1,597,899	688,619
	3,183,924		2,601,550		2,586,664		2,286,518	

※別途 2022 年度は国保連より福祉介護職員処遇改善臨時特例交付金支給あり（レッド館：37,611 円 オレンジ館：27,487 円）

クレヨンレッド館 対前年比 122% クレヨンオレンジ館 対前年比 113%
2 施設合計 対前年比 118%

2 重点項目に関する報告

事業計画に設定した項目の進捗を報告

◇2-1 ご利用者自身の生活する力や能力を発揮して頂き、生きがいを感じられるような生活を大切に支援（食事が美味しい、お風呂が気持ちいい、他のご利用者や職員との話が楽しいなど）しました。その為に、通所施設と連携し情報を共有し、どのように過ごしたいのか（のんびり自室で過ごしたいのか、テレビや DVD を観たいのか、音楽を楽しみたいか、ゲームをしたいのか、リビングで職員や他のご利用者と一緒に過ごしたいのか）普段の生活のリズムはどのようにしているかなど、ご本人や家族と話し合いながら落ち着いて宿泊できるように支援しました。若い世代のニーズにお応えし Wi-Fi 環境も整え、スマホやタブレット等をご持参され楽しめる方も増えました。

◇2-2 ご家族のニーズに応じ入浴の介助や見守り、トイレの介助、歯磨き介助等サービスを提供しました。ご利用者のご家族もそれぞれの希望をもっていますので、ニーズに対応し、ご利用者の声に耳を傾け人権やプライバシーを尊重し支援しました。また、継続利用のご利用者のご家族と通所施設担当者を招いて支援のあり方について話し合いをしました。

◇2-3 宿泊体験などで、食事や生活全般において相談・助言を行い、サービスの提供を行いました。

- ・健康に配慮した食事の提供を行いました。
- ・服薬や、軟膏の塗布など、健康管理を徹底しました。
- ・ご利用者の相談、要望を聞き、必要に応じて助言を行いました。
- ・洗濯や片付けの支援を一緒に行いました。



2022年度 とびら(忠生地域障がい者支援センター)事業報告

センター長 宮城 加奈子

はじめに

忠生地域障がい者支援センターは職員を1名増員し、8名で業務にあたりました。そのため、増え続ける地域のケースにも丁寧に対応することが出来ました。また、職員に大きな入れ替えがないため、知識力の向上、スキルアップもできており、スムーズな対応が可能となっています。

しかし、長年ケースワークを行なっても初めて対応するような案件もあり、その都度事業所内での情報の共有を行なっています。

区分更新調査については、障害福祉サービス利用者が増えていることもあり、どの年度も多くなっています。計画的に取り組めるように確認をしています。

とびらの状況については、新規契約を停止しました。200件弱の契約数があり、サービスの質の低下や1人1人に寄り添った相談が行えなくなると判断し新規契約の停止の判断をしました。制度や報酬の在り方が変わってくる事で、再開できるように関係各所に訴えていきます。

1 施設経営状況報告

◇1-1 利用者数

➤相談支援を利用している障がい者等の内訳（新規）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
身体障がい者	19	7	3	7	10	6	52
重症心身障がい	3	0	3	0	0	0	6
知的障がい	33	18	16	12	9	14	102
精神障がい	54	18	18	12	17	25	144
発達障がい	2	1	3	3	1	2	12
高次脳機能障がい	0	1	0	0	0	0	1
その他	8	4	0	3	4	2	21
合計	119	49	43	37	41	49	338
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
身体障がい者	7	2	4	5	6	4	80
重症心身障がい	1	0	2	0	1	3	13
知的障がい	6	12	8	11	10	9	158
精神障がい	17	7	12	9	14	8	211
発達障がい	2	1	3	0	2	2	22
高次脳機能障がい	0	0	0	0	0	0	1
その他	2	2	0	0	0	2	27
合計	35	24	29	25	33	28	512

➤支援方法（延べ数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
訪問	37	25	29	12	25	23	151
来所	15	18	25	24	27	18	127
同行	9	2	9	4	7	10	41
電話	89	83	59	76	92	73	472
メール	1	1	0	1	0	2	5
個別支援会議	9	6	6	7	1	5	34
関係機関	1	0	0	0	0	0	1
その他	2	2	0	1	0	0	5
合計	163	137	128	125	152	131	836
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	36	31	41	29	19	25	332
来所	30	20	18	21	17	21	254
同行	5	4	5	4	6	3	68
電話	41	65	75	78	70	117	918
メール	0	0	0	1	0	0	6
個別支援会議	4	2	1	9	6	5	61
関係機関	0	0	1	0	0	2	4
その他	0	0	2	0	3	3	13
合計	116	122	143	142	121	176	1656

➤窓口における申請・お問合せ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
来所	145	101	116	181	278	131	952
電話	50	59	64	53	52	53	331
合計	195	160	180	234	330	184	1283
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
来所	115	169	134	131	170	187	906
電話	58	62	38	52	73	72	355
合計	173	231	172	183	243	259	2544

◇1-2 職員数、離職率、有休取得率

管理者：1名

職員数：7名（常勤換算 5.0 ※管理者除く）

離職率：0%

有休取得率：65.0%

◇1-3 給付収入、委託収入

障がい者支援センター (受託事業収益)	
4月	2,474,018円
5月	2,474,017円
6月	2,474,017円
7月	2,474,017円
8月	2,474,017円
9月	2,474,017円
10月	2,474,017円
11月	2,474,017円
12月	2,474,017円
1月	2,474,017円
2月	2,474,017円
3月	2,474,017円
合計	29,688,205円

(2021年度 29,476,114円)

とびら (計画相談支援給付費収益)	
4月	204,814円
5月	329,646円
6月	279,009円
7月	323,902円
8月	304,349円
9月	177,196円
10月	213,430円
11月	276,731円
12月	135,769円
1月	396,921円
2月	191,005円
3月	235,304円
合計	3,068,076円

(2021年度 3,721,830円)

◇1-4 修繕実績

該当なし

◇1-5 助成金

該当なし

◇1-6 固定資産になる物品等

該当なし

2重点項目に関する報告

◇2-1 地域生活支援拠点等が担う機能を取り組みます。

- 地域の体制づくりとして、忠生エリア凸凹ネットワーク、忠生エリア GH 凸凹ネットワーク、忠生エリア😊ネットワークを開催しました。
 - 忠生地域の他サービス事業所との連携として、地域ケア推進会議に参加しています。
- *開催状況については【3-6】を参照。

◇2-2 ひかり療育園（高次脳機能障害相談支援）との連携

- ひかり療育園と情報共有し、高次脳機能障害者の相談支援を行っています。
- ひかりサロンの開催日は、職員を派遣してサポートしています。
- 月1回の南多摩圏域高次脳機能障害連絡会に参加し、高次脳機能障害について学びを深めてたり、事例を通して情報共有しています。

◇2-3 高齢化に対応できる知識を深めます。

- これまで障害福祉サービスを利用されてきた 65 歳を迎える方について、介護保険の申請の説明や必要に応じ調査の同席を行ないました。障がい福祉サービスから介護保険への移行がスムーズに行えるように支援しています。

◇2-4 計画相談の新規受け入れができるように整備します。

- 相談支援専門員を 1 名増員し、これまで進められていなかったご利用者の相談支援を始ました

3 その他の報告

◇3-1 職員研修（研修実績）

開催日	内 容	開催機関
4月・5月	階層別研修	法人内
6/23	虐待防止研修	法人内
6/27～8月末(4日間)	相談支援専門員現任研修	東京都
6/24	町田市相談支援研修	町田市
7/29	支給決定会議研修	町田市
9/28	相談支援Ⅳ 発達障害者との面接のあり方	東京都
9/21～全7回	福祉の壁をぶっ壊すWS	法人内
10/14	子ども発達支援センター研修	町田市
11/22～30中1回	盲導犬研修	日本盲導犬協会
11/29	精神科 Dr.によるメンタルケア研修	町田市
12/9	サービス管理責任者更新研修	東京都
12/9	成年後見制度研修	町田市社協
12/14	経営管理研修	東京都
2/16	手帳渡し研修	町田市

*SP ラーニング：各自

◇3-2 事業所内会議の開催状況

- (1) 職員会議：月 1 回開催
 - (2) ケース会議：月 1 回開催
 - (3) 窓口会議：月 1 回開催
 - (4) 調査会議：月 1 回開催
- 月 1 回の会議を行なうことで、情報共有が図れていて、職員間の業務の進捗状況の確認ができています。
 - 毎日朝夕でミーティングを行い、情報共有をしています。職員の情報の標準化が図れています。
 - 水曜日に会議を行なっているが、来所相談、訪問相談、電話対応と職員が参加しにくい状況が続いているため、時間や場所の再設定を検討し、来年度変更していくこととなった。

◇3-3 リスクマネジメント（ヒヤリ、事故）

- 車が出払っていて移動手段がないことが複数回ありました。
→職員が増員されたことで、訪問する機会が増えており、車の使用率が上がっています。
- 事業所に残る人が足りない。
→新型コロナ感染や職員の家族の体調不良による突発的な休み、地域の障がい者の緊急対応など。
- 休日チェーンで閉鎖していた来客用駐車場に車が突っ込んできて、ポールが破壊されていた。
→警察対応となった。

◇3-4 主なご意見

- 成人になったときの「手当」の申請の必要書類について。
- 受給者証の印刷内容のズレについて。
- 調査時に個人情報聞きすぎではないか。

◇3-5 実習生、ボランティア（実績報告）

該当なし

◇3-6 地域連携（会議、講習会、など）

開催日	内 容
年6回開催	法人連相談支援事業所連絡会 4/27・7/27・10/12・12/14・1/13・3/6 地域生活支援拠点について 相談支援部会に向けて
6/24 11/28 1/31	町田市相談支援事業所連絡会 事例検討 研修 緊急対応について
5/31 8/23 10/18 1/24	町田市相談支援部会
5/27 9/27 1/23	忠生エリア凸凹ネットワーク
8/30.31 2/22	忠生エリア GH 凸凹ネットワーク（知的）
11/25 3/7	忠生エリア GH 凸凹ネットワーク（精神）
1/26	忠生エリア😊ネットワーク（地域会議）
9/15～ 計8回	支え合いの町忠生（地域ケア推進会議）
10/2	木曽地区別懇談会
11/20	忠生地区別懇談会
3/14	情報交換会

3/28	8050 連携会議
11/16	忠生地区協議会

*地域での会議は、新型コロナウイルス感染症対策で書面開催、見送りのものがあります。

2022年度 ひかり療育園事業報告

園長 清水 謙一

はじめに

4月から民間移譲としてまちだ育成会の運営が開始されました。今までの流れを踏襲しながら、まずはご利用者、ご家族との信頼関係を築くことに大切にしてきました。新型コロナウイルス感染症の第7波が7月8月で猛威を振るいましたが、感染者もなく変わらず開所が続けられました。4回目ワクチン接種を施設で行いました。ひかり祭り（お祭り週間）、利用者集団健康診断、日帰り外出、訪問カットを実施しました。すべてが初めての取り組みの中、安全に実施する事が出来ました。利用者、保護者の方からも大変感謝の声を多くいただきました。

新規利用者6名が新たに仲間入りしました。町田の丘学園からの実習や見学会の実施、各障がい者支援センターからの実習、見学も受け入れを行い、ひかり療育園の事を多く方に知っていただく機会となりました。

入浴サービスのニーズは多く、利用者、ご家庭にとっては大事なサービスとなっています。職員のきめ細かい支援、介助により、安心安全に入浴を実施できました。

高次脳機能障がい相談事業については、日々の相談受付、ひかりサロンの開催、関係機関との情報交換を行いました。ひかりサロンには2名の方が新たに参加される方が増えました。

1 施設経営状況報告

◇1-1利用者数、出勤率

在籍者数 40名（生活介護事業 25名）

退所者3名（4月2名、6月1名）、入所者6名

出勤率 84.3%

◇1-2職員数、有休取得率

職員数 16名（常勤換算13.6）

2名退職（7月1名、9月1名）、2名入職（9月1名、10月1名）

◇1-3給付収入、委託収入

	生活介護	高次脳機能障がい相談	合計
給付費	58,770,501円	0円	58,770,501円
サービス推進費	5,100,000円	0円	5,100,000円
補助金	65,000,000円	4,102,000円	69,102,000円
合計	128,870,501円	4,102,000円	132,972,501円

◇1-4修繕希望

照明器具

◇1-5助成金

機械入浴浴槽（助成申請先未定） 7,000,000円

2 重点項目に関する報告

◇2-1 ご利用者、ご家族、地域の方々などの信頼を得られる施設運営

安心安全を第一に丁寧な寄り添った支援を継続していく、ご利用、ご家族が安心できるように保護者会での情報交換、連絡帳できめ細かい情報交換、共有、集団ワクチン接種、集団健康診断を行いました。

◇2-2 個別支援計画書、点検書の作成の質の向上

個別支援計画の作成、面談を実施して、ご家族等の話を聞く機会を持ちました。ショートス

テイの利用、通園日数を増やす、個々の支援体制の見直しを行う為の意見交換を行えました。すべての工程が初めてでしたが、より良い個別支援計画が作成され実行されています。

◇2-3 安心できる介助、支援の提供

入浴機械のデモンストレーションやインカムの導入等を検討しました。安心できる介助、支援を提供する為の環境整備の為、パーテンションの入れ替えや衛生面等を整備しました。

◇2-4 心身の健康維持、増進の充実

医療との連携（整形外科、内科、精神科など）の継続と充実を図り、専門職員（PT、OTなど）との連携をさらに図りました。年齢や状態に合わせた支援、介助を行う為に専門性のある視点を取り入れる事が出来ました。

◇2-5 チームワークを大切に作る風土（全員活躍）

4月、5月、6月は会議の中で1人1人今の気持ち、考えている事、不安な事を発言する場面を作りました。スタート当初の気持ちをみんなが知る機会を持ち、相手の状況を理解し合うように行いました。心理ゲームを行ったり、グループワークは話し合いをおこなったりのコミュニケーション活性を図った取り組みを行いました。運営支援会議を8月から中核層の会議で課題へ対しての解決立案を行いました。

- ・次日の予定をみんなで確認する時間を作る
- ・提携業務のフォローする仕組み

9月からコミュニケーションも増え、1人1人のゆとりも見られ始めました。

◇2-6 町田市美術工芸館との連携

クレープのキッチンカー活動時に連携を図り、敷地が隣である事を活かしました。利用者はとても喜んで楽しまれていました。

3 その他の報告

◇3-1 余暇活動

新型コロナウイルス感染症の状況や対策を講じて、喫茶活動やひかりまつり週間でお昼をマクドナルドやカレーなどを頼み楽しみました。キッチンカーを呼びクレープを食べました。

2月には3グループに分かれて日帰り外出で橋本アリオに外食と買い物を楽しみました。

◇3-2 委員会の実施

委員会名	内容
虐待防止、危機管理委員会（法人）	ヒヤリ・アクシデント・事故の取りまとめ、分析。施設長へ提案・意見具申。虐待防止の為に検討など支援現場の向上に努めました。人権チェックリストの作成、分析、苦情の相談窓口、対応。⇒ヒヤリ、事故の取りまとめ、分析を取り組みました。
研修委員会	研修の情報案内、報告書の取りまとめ、内部研修の準備、人財育成を意識した研修を実施しました。
保健・医療委員会	新型コロナウイルス感染症対策・予防（手洗い・消毒）の徹底 体重測定、健康診断の取りまとめなどを行いました。
美化委員会	掃除計画、備品の発注取りまとめ、備品管理、掃除道具確認、大掃除計画
広報委員会（法人）	広報誌の発行、ひかりパンフレットの作成
災害対策委員会	防災訓練の計画、実施。防災備蓄の準備、管理。
給食委員会	お弁当注文、食座席の検討、食事形態の見直しなどに取り組みました。
苦情解決・人権擁護委員会	苦情解決の為に対応を検討、苦情事例の共有化を図る。
送迎委員（法人）	送迎時間、ルート決定。運転手、添乗と連絡調整。車両の管理、維持。運行日誌の月末締め、送迎利用者の利用状況のまとめ。
レスパイト	申請書の窓口、ご家庭との連絡調整。月予定の作成

◇3-3会議の開催状況

会議名	会議の用途	開催頻度
職員会議	施設の最高決定機関（全体会議）	月1回（第1金曜日）
ケース会議	ご利用者の支援について多角的に検討する会議（全体会議）	月1回（第2金曜日）
行事担当	業務分担に準ずる。実施日を逆算して、準備、打ち合わせを行う。	必要に応じて開催
委員会	業務分担に準ずる。事業計画書の役割を実施するために、打ち合わせ、検討を行う。	必要に応じて開催

◇3-4リスクマネジメント

ヒヤリハットや事故があった時には、夕方のミーティングにて報告し、対策を検討しました。常に意識を持ち、危険を察知できるよう職員に意識付けを行いました。その他各部門、倉庫内、備品等の整理整頓を定着させ、掃除をしっかりと行い、働きやすい環境、転倒等が起きにくい環境作りを徹底しました。

ご利用者のアセスメントを行い、事故等のリスクを想定し共有しました。

	ヒヤリハット	事故 (アクシデント)		ヒヤリハット	事故 (アクシデント)
4月	13件	0件	10月	1件	1件
5月	2件	1件	11月	6件	0件
6月	10件	1件	12月	5件	2件
7月	11件	0件	1月	1件	0件
8月	11件	0件	2月	1件	1件
9月	6件	0件	3月	1件	1件

(1) ヒヤリハット

- ・ コップやスプーンの消毒庫に入れ忘れなど
- ・ 入浴タオルの持ち帰り忘れなど
- ・ 送迎車時の車椅子フックの掛位置確認漏れ
- ・ 車椅子のブレーキとチルト間違い

(2) 事故

- ・ 車椅子ベルトの外し忘れ
- ・ お弁当受け取り忘れ等
- ・ リフトベルトの確認漏れ

ヒヤリハット、事故ともに大きなケガや事故はありませんでしたが、個別の障がい特性に合わせた支援と配慮が必要であり、慣れない上半期は件数が多くある傾向です。漏れがないように帰りのミーティング時に次の日の確認や不安点を確認しあう事で減らす事が出来ました。

◇3-5実習生、ボランティア

町田の丘学園、野津田高校、大学インターシップ、職場体験学習等の実習を受け入れました。ボランティアなどを積極的受け入れ、敷居が低く、風通しのよい施設を目指しました。

受け入れ先	人数/期間
町田の丘学園2年生	1名 6/27~7/1 (5日間)
町田の丘学園3年生	1名 9/14~9/16 (3日間)
法政大学2年生	2名 9/6~9/14 (7日間)
桜美林大学2年生	2名 10/3~10/12 (7日間)
町田の丘学園3年生	1名 10/17~10/19 (3日間)
町田の丘学園3年生	1名 10/26~10/28 (3日間)
東京福祉大学	2名 11/7~11/11 (5日間)

福祉施設介護体験実習	2名 12/5 ・ 3名 12/12
町田の丘学園2年生	1名 1/16~1/18
町田の丘学園3年生	1名 2/6~2/8 (3日間)
東海大学	1名 3/3・3/8 (2日間)

◇3-6地域貢献、地域交流（祭り、講習会、など）

近隣町内会等も懇談を行い、良好な関係構築するよう努めました。施設貸し出しを継続し、地域に会議室などの資源を提供しました。

月	貸出団体名	貸出日数
4月	青年学級・どんぐり太鼓	3日間
5月	忠生中央町内会・どんぐり太鼓	5日間
6月	忠生中央町内会・どんぐり太鼓、青年学級、すみれ教室	6日間
7月	忠生中央町内会・どんぐり太鼓、青年学級、すみれ教室	6日間
8月	青年学級	1日間
9月	忠生中央町内会・どんぐり太鼓、青年学級、すみれ教室、障がい福祉課	6日間
10月	忠生中央町内会・どんぐり太鼓、青年学級、すみれ教室	4日間
11月	忠生中央町内会・どんぐり太鼓、青年学級、すみれ教室	6日間
12月	どんぐり太鼓、青年学級、すみれ教室	5日間
1月	青年学級	1日間
2月	どんぐり太鼓、青年学級、すみれ教室	5日間
3月	どんぐり太鼓、ドレミの仲間	4日間
		52日間

◇3-7保護者会

5月に保護者会を開催しました。2ヵ月の状況、今後の予定などの意見交換を行いました。9月のお祭り週間は、ご家族の見学を行えるように行い、施設やお祭りの様子を見ていただきました。

11月と3月に保護者会を開催しました。3月の保護者会時は2月の外出時の写真をスライドで見ていただきました。午後はマンドリンの演奏会を行い、保護者の方も一緒に見学鑑賞をしました。良い交流の場となりました。

4 高次脳機能障がい相談支援事業について

高次脳機能障がい者の支援事業は当事者、ご家族の相談支援を実施するとともに、医療機関、就労生活支援センター等の関係機関との連携を図り、高次脳機能障がい者が地域で自立した日常生活及び社会生活を営む事ができるように支援する事を目的としました。

① 個別相談

電話、面談、訪問等での個別相談を実施しました。

	電話	来所	訪問	Mail
相談方法件数	45件	25件	3件	7件
	本人	家族	関係機関	その他
相談者件数	30件	27件	23件	0
	知的	身体	精神	高次脳
障がい種別	1件	0	0	77件

② 高次脳機能障がい者のグルーピング運営、家族会のサポート

ひかりサロンを年13回実施しました。高次脳機能障がい者と家族が集い、プログラムに参加し、リハビリや相談支援を行いました。

	内容	当事者	家族
5月18日	話し合い、ゲーム、創作	7名	7名
6月29日	話し合い、創作	9名	9名
7月6日	中止		
7月20日	話し合い、ゲーム	6名	6名
9月7日	町田ダリア園散策	3名	4名
9月21日	音楽療法	7名	7名
10月5日	音楽療法	8名	6名
10月19日	音楽療法	5名	4名
11月2日	地域清掃活動	5名	6名
12月7日	創作活動	4名	4名
12月17日	クリスマスパーティー	8名	4名
1月18日	書初め	4名	5名
2月15日	脳のトレーニング	6名	5名
3月15日	お茶会（モスバーガー）	3名	3名

③ 関係機関との連携

- ・南多摩高次脳機能障害支援普及事業協力施設連絡会（年12回）
毎月第三火曜日 オンラインにて実施。清水、柏木、宮城、岩崎
- ・町田市高次脳機能障がい関係機関等連絡会（年3回）
7月15日 開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の為中止
11月25日 18名参加 各機関からの情報提供
3月10日 17名参加 事例検討、情報交換
- ・専門職との連携
多摩丘陵病院（OT、ST）、臨床心理士（CP）、音楽療法士（MT）などと連携を図り、多角的な相談支援を行った。

④ 広報、普及啓発活動（年2回）

市民を対象に、高次脳機能障がいに関する講演会を実施。

11月30日 「高次脳機能障がいの理解と支援について」

東京慈恵会医科大学附属第三病院 教授 渡邊 修

参加人数34名

2月22日 「当事者は居場所を 家族には支援を」

作家 柴本 礼

参加人数32名

監査報告書

2023年5月25日

社会福祉法人まちだ育成会
理事長 齊藤 喬 殿

監事

山田 稔

私は、2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び職員等に意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務の状況を調査しました。以上の方法により、当該年度に係る事業報告等について検討いたしました。

2 監査の結果

- 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示していると認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

3 監査の意見

- 一 複数の施設で高齢化による転倒等が見られます。ご家族にご自宅での状況等をヒアリングするなどして、ご家族と一緒に考えていく必要があると思います。見守りだけでなく、介助等今後の対策をお願いします。

